



和哥一字抄_下

2207
2



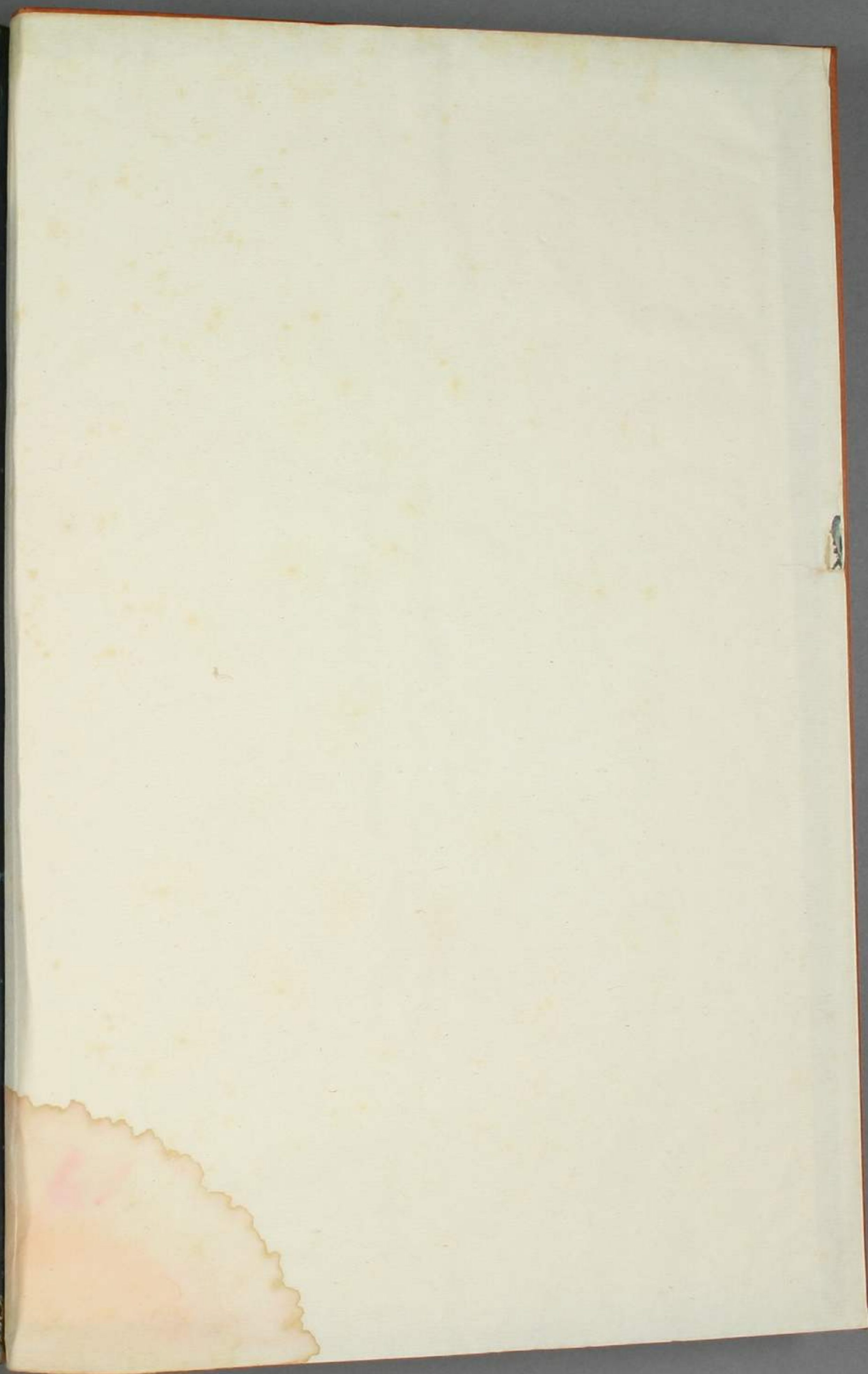
永奇一字物



下



八利4
2.207
25



靡^七積^七聳^五立^五寄^九歲^三忘^七自^七問^五變^九俄^三何^七嘶^一

群^五馴^六傳^六尋^六對^五重^五代^四逐^七鎮^六田^三句^五遙^八狀^二
替 遊

結^七半^五常^六闌^五向^五出^四懸^九趣^三散^七閑^五似^九恥^三到^三

露^七猶^七連^六漆^五為^五依^四傾^四度^四契^六封^六細^六拂^十戴^四
尚

浮^七啼^七告^六添^五作^五呼^四淡^四總^五胃^六解^三綻^七亡^十傷^五

移^七慰^七畫^六底^六成^五橫^四芳^三辨^六各^三飛^六隔^六端^十忌^六
忙

利
2207
卷



未^{百九}落^{百九} 不^{百九}闲^{百九} 不^{百九}改^{百九} 不^{百九}失^{百九} 不^{百九}弁^{百九} 不^{百九}绽^{百九} 十^{百九} 四^{百九} 復^{百九} 翠^{百九} 色^{百九} 過^{百九} 晚^{百九} 徽^{百九}

未^{百九}深^{百九} 不^{百九}知^{百九} 不^{百九}明^{百九} 不^{百九}殘^{百九} 不^{百九}忘^{百九} 不^{百九}留^{百九} 兩^{百九} 五^{百九} 紫^{百九} 青^{百九} 林^{百九} 水^{百九} 漏^{百九}

未^{百九}飽^{百九} 不^{百九}一^{百九} 不^{百九}定^{百九} 不^{百九}起^{百九} 不^{百九}歸^{百九} 不^{百九}解^{百九} 不^{百九}歇^{百九} 六^{百九} 數^{百九} 字^{百九} 黃^{百九} 樹^{百九} 催^{百九} 閑^{百九}

未^{百九}遍^{百九} 不^{百九}言^{百九} 不^{百九}窮^{百九} 不^{百九}待^{百九} 不^{百九}語^{百九} 不^{百九}乏^{百九} 不^{百九}到^{百九} 七^{百九} 一^{百九} 赤^{百九} 江^{百九} 叢^{百九} 翫^{百九} 曳^{百九}

未^{百九}閱^{百九} 未^{百九}出^{百九} 不^{百九}未^{百九} 不^{百九}異^{百九} 不^{百九}眠^{百九} 不^{百九}散^{百九} 不^{百九}離^{百九} 八^{百九} 二^{百九} 白^{百九} 薄^{百九} 衣^{百九} 欲^{百九} 久^{百九}

未^{百九}用^{百九} 未^{百九}晴^{百九} 不^{百九}如^{百九} 不^{百九}擇^{百九} 不^{百九}流^{百九} 不^{百九}分^{百九} 不^{百九}拂^{百九} 九^{百九} 三^{百九} 黑^{百九} 袖^{百九} 澄^{百九} 透^{百九} 比^{百九}

不^{百九}擇^{百九}
不^{百九}撰^{百九}

凌^{百九} 亂^{百九} 呼^{百九} 盛^{百九} 厚^{百九} 愛^{百九} 混^{百九} 歷^{百九} 待^{百九} 悔^{百九} 第^{百九} 貽^{百九} 埋^{百九} 汪

生^{百九} 皆^{百九} 夾^{百九} 更^{百九} 洗^{百九} 憐^{百九} 越^{百九} 踏^{百九} 招^{百九} 宿^{百九} 惜^{百九} 延^{百九} 打^{百九}

滿^{百九} 清^{百九} 曝^{百九} 爭^{百九} 荒^{百九} 朝^{百九} 每^{百九} 勝^{百九} 浙^{百九} 思^{百九} 掩^{百九} 栽^{百九} 徐 億

頻^{百九} 知^{百九} 消^{百九} 避^{百九} 遍^{百九} 當^{百九} 擇^{百九} 如^{百九} 交^{百九} 破^{百九} 重^{百九} 驚^{百九} 薄^{百九} 法

辭^{百九} 隨^{百九} 行^{百九} 礙^{百九} 遇^{百九} 遊^{百九} 照^{百九} 戀^{百九} 增^{百九} 易^{百九} 伴^{百九} 折^{百九} 望^{百九} 障

映^{百九} 滴^{百九} 迴^{百九} 妨^{百九} 鮮^{百九} 餘^{百九} 間^{百九} 籠^{百九} 與^{百九} 稀^{百九} 薰^{百九} 落^{百九} 殘^{百九}

家二五五、
時二五七、
水郷二五七

村二五六、
離二五三、
仙家二五八

処二五七、
色二五三、
山家二五九
山館
山居

年二五八、
禁中二五九、
田家二五九

日二五九、
古郷二五五、
言志二五五

夜二五九、
遠郷二五九、
昂事二五九



春動漸

一 漸

あはれ日影のほよほの影にいとゆるりゆく今あさるし

春宮文師魚

二 歌

依光歌風

新續古

尋しきるくわんたごう神とさうつとせむ下風

新巻後雅有

射光歌風

まゆめいそとて風とすいそあてむあさるんをし

源後頼朝臣

曉月歌風

月影のこころなほいそあてむあさるんをし

以阿法師

あみつたあさるる月まかあつしむれそ

後拾遺院

あらまうまのあさるる山つる月まあつたあさるる

春宮後雅

あつたあさるる人まのあさるる雪のあさるるよなとあさるる

新巻後雅

三 到

あつたあさるるあつたあさるるあつたあさるるあつたあさるる

道達院

春到氷解

あつたあさるるあつたあさるるあつたあさるるあつたあさるる

春宮文師魚

早涼到

あつたあさるるあつたあさるるあつたあさるるあつたあさるる

後雅有

松つ到曉八 緩松

松の糸ね鳴こちつた山の揚よいてるをきくやもくもあはれ

和氣種威朝臣

楊衣到曉月能細 高不 三言

夕けよ月とちていひさむあつつきをきくやもくもあはれ

後醍醐院

あまきつらよあはれけいけい衣夕けきききの着るよへけい

後拾遺院

ねのよれねあたまもささかす衣あたまもささかす

同

いささか〜八春のきもささかす人あたまもささかす

道達院高

よしあたまもささかすあたまもささかすあたまもささかす

同

はれももちあたまもささかすあたまもささかすあたまもささかす

持酒院

戴

白首戴高

いづるたむすりしめていづるたむすりしめていづるたむすりしめて

藤原成高

庭草戴高

庭の草もけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけい

藤原院

いづるたむすりしめていづるたむすりしめていづるたむすりしめて

隆祐朝臣

傷

秋夕傷心

いづるたむすりしめていづるたむすりしめていづるたむすりしめて

後拾遺院

見月傷老 寛正 四

老る月のつらさ〜いづるたむすりしめていづるたむすりしめて

後拾遺院

忌

忌早苗十首

さあつたふけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけい

中務卿宗良

いづるたむすりしめていづるたむすりしめていづるたむすりしめて

後拾遺院

歳昔恥 新秋 六

今更にいづるたむすりしめていづるたむすりしめていづるたむすりしめて

伊勢

いづるたむすりしめていづるたむすりしめていづるたむすりしめて

二宗親主

いづるたむすりしめていづるたむすりしめていづるたむすりしめて

後拾遺院

何

残花何有

あつた花もいづるたむすりしめていづるたむすりしめていづるたむすりしめて

藤原院

残花在何

あつた花もいづるたむすりしめていづるたむすりしめていづるたむすりしめて

後拾遺院

十二 端

最端雲文安三 七五二

先わきおかしき雲のらる草あはれけりたわらふれなかり

後納言雅親

最端虫五 後後

草れあはれよすに鳴虫のうらやふらうとらねんほし

休見院

雲端初層

くろ層のほくたれかか白雲のんまうくても山やさしく母

後納言院

雲端層

鳴くまのこの酒をかり金のまこしりやうらうら聞えつ

同

山端月十六

ぬくまの雲吹しほふまうしにやうらのりおとれ月

藤原為重

十二 俄

梅は俄散一金

ふよふに足よこりせし梅花びらやまの風よちりま

大納言経信

十二 白

花白

小初はや重しあうらにけりて巻の文香まのんあふらさ

秋河法師

十 同

藤は久白

おむらんぬもきとも為あつみか林うらうらこれ

肖柏

岸菊久白

ををれ花よれをぬ菊のうれきはのねまわらむしん

大夫人侍

残菊白光盛院 五十者

なつかり末の世あてよほさむせすこて白くあられ白菊

義忠

同

白菊のうらうら花はまのうれ草れゆりの文とこうこれ

法師幸清

同

草も子もうらうらうらな風よびらちをぬをれ白菊

後任院宗

同

くわらうらうらうらも白菊のうれたせぬぬのねま

正三位知家

同

むとらん一籠しあはれまこくくおに白くあられ白菊

鹿苑院入道

同

何とて花をわらう林の菊白すまうたつむ人もれ

後拾遺院

五 似

春君似眉

浅みら玉の元より浅君の花散里のうらうらうら

伊豫大輔

柳似眉

浅みら玉の元より浅君の花散里のうらうらうら

春宮文師益

西唐似字

うすいんよみとくはむしりあめのもらやかひ唐のね

前田信雅言

待花似意

いもりともいもきあひあはれきしあゆめは

依位頼政

花似雲

あはれきしあゆめは

親王

山花似雪

よの山花似雪とてあはれきしあゆめは

前田信雅言

花似雪

よの山花似雪とてあはれきしあゆめは

前田信雅言

借春似友

あはれきしあゆめは

後拾遺院

卯花似電

あはれきしあゆめは

後拾遺院

夕花似電

あはれきしあゆめは

後拾遺院

雲似玉

あはれきしあゆめは

後拾遺院

小車似玉

あはれきしあゆめは

後拾遺院

荷露似珠

あはれきしあゆめは

後拾遺院

月色似秋

あはれきしあゆめは

後拾遺院

秋風似雨

あはれきしあゆめは

後拾遺院

薄似袖

あはれきしあゆめは

道達院

簾似紗似玉

あはれきしあゆめは

相模

雁似摺声

あはれきしあゆめは

道達院

月似古

あはれきしあゆめは

後拾遺院

月光似畫

あはれきしあゆめは

道達院

月似雪

あはれきしあゆめは

同

月似水

あはれきしあゆめは

後拾遺院

河月似水

あはれきしあゆめは

同

月似鏡

あはれきしあゆめは

後拾遺院

月似鏡

あはれきしあゆめは

道達院

月似鏡

あはれきしあゆめは

道達院

月似鏡

あはれきしあゆめは

道達院

月似鏡

あはれきしあゆめは

道達院

月似鏡

あはれきしあゆめは

道達院

紅葉似錦

教似玉
烽火似春

月をまに清きりし 林のよき葉の上なるは
明なるのよき花のよき葉の上なるは
こぼれわたるもよき花のよき葉の上なるは
わらわら葉のよき葉の上なるは
秋のよき葉の上なるは
雲の月のよき葉の上なるは
山をくすくすしり 鳥のよき葉の上なるは
草のよき葉の上なるは
石のよき葉の上なるは
水はよき葉の上なるは

後拾遺院

春深海鏡

後拾遺院

道達院

春深海鏡

後拾遺院

道達院

春深海鏡

後拾遺院

春深海鏡

炭電煙細

十六
細

炭電煙細 後拾遺院

後拾遺院

十七
定

山花半定
藤花半定
萩半定
菊半定
新定

山花半定 山花半定
藤花半定 藤花半定
萩半定 萩半定
菊半定 菊半定
新定 新定

隆淳園架

兼大信長

長官文師

藤原信長

後拾遺院

后原月

后原山
晚后原暮山
后原浦
后原行船

后原月 后原月
后原山 后原山
晚后原暮山 晚后原暮山
后原浦 后原浦
后原行船 后原行船

中務

道達院

後拾遺院

春原隆信

後拾遺院

陽浪見花

春をみほの命つづきをいかにていかにうらむせぬ

清原元輔

藤原山

あしきもあはれなるの神のまがもともあもあまうじ

道達院有

藤原残花

くらくはあまうじと山樺風はのこもあまのこも

藤原

藤原陽垣

あしきもあはれなるの神のまがもともあもあまうじ

藤原

卯花陽水

卯花のうらめ垣ねよあまもあまうじとあまのこも

後位院

陽夜水鶏

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

関白

芳陽山寺

松のえんとたぐ水鶏よとあまのこもあまのこも

三善院

務陽山寺

照月とみよふとあまのこもあまのこも

後拾遺院

務陽山

卯花とみよふとあまのこもあまのこも

同

務陽山

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

同

務陽山

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

同

陽山

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

同

陽河江系

物白山のあまのこもあまのこも

春成院

紅葉陽池

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

後位院

紅葉陽池

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

藤原仲実

陽垣水系

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

法華寺

寒若陽水

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

鴨也卵

紅葉陽池

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

源後院

水単陽池

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

大徳院

紅葉陽池

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

関白

紅葉陽池

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

道達院

紅葉陽池

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

猿橋院

紅葉陽池

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

猿橋院

紅葉陽池

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

白河院

紅葉陽池

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

長安院

紅葉陽池

あはれなるもあまうじとあまのこもあまのこも

長安院

尚松園寫

梅香留袖

ちびとこしとゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

回基

藤原隆信

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

梅の香あや袖の白いゆいれき言れ声ハお流りこありたりなり

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

水用池水

水用河水

水用砂水

水用細流

水用池水

水用河水

水用砂水

水用細流

水用池水

水用河水

水用砂水

水用細流

水用池水

水用河水

水用砂水

水用細流

水用池水

水用河水

水用砂水

水用細流

水用池水

水用河水

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

文無
孝

山風もさゆりりのかんくわら水もあれせたりわがさ

くさくさもせむおれもるりきたるれおやれ山火

さゆりあつた水にさゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

封

凍封池面

佇濃よりまよふ水 あつちりふ人のからりなるれ

月 風定む水もまよふ池水もさゆり鳥のさゆりまよふれ

解

氷解

氷わー池の心もたけりてまよふ波のさゆりくからん

ゆりの水にさゆり山樞のさゆりまよふまよふのゆり

飛

花如雪

白雪いりるさゆりて散るのさゆりゆりゆりゆりゆり

海上鳥飛

流るる鳥のさゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

兼飛渡水

立田りさゆりさゆり風もさゆりゆりゆりゆりゆり

飛渡水清

さゆりさゆり水のさゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

さゆりさゆり天のさゆりゆりゆりゆりゆりゆり

江雨踏る花

江雨もさゆりさゆりさゆりゆりゆりゆりゆり

さゆりさゆりさゆりさゆりさゆりさゆりさゆり

さゆりさゆりさゆりさゆりさゆりさゆりさゆり

さゆりさゆりさゆりさゆりさゆりさゆりさゆり

同

射花同昔

見れらるる心をさゆり人やおもひさゆりゆりゆり

いりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

まゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

まゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

まゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

なつれはききしちりしりけりしりけりしり
うらなふとちりしりけりしりけりしり
新月同昔 志すやうもちりしりけりしり
鎮

洞雲鎖
としりしり道きりしりけりしり
善ぬしりしりしりしりしりしりしり
云のえれしりしりしりしりしりしり

春雲散風
風よりしりしりしりしりしりしりしり
散りしりしりしりしりしりしりしり
藤原水實

秋夕散
山吹しりしりしりしりしりしりしり
秋夕散
後拾遺

九六
秋
宜いしりしりしりしりしりしりしり
式の記王

梅咲多春
花咲多春
花咲多春
大納言後明

花先咲万年
松咲万春
七夕咲
大納言後明

月咲秋
月あしりしりしりしりしりしりしり
後拾遺院

久矣明月 玉七 ちりるりかきんたるは秋の八百の代と照りては 貞院

月皎如如 玉七 きよせもききくみこりて月より皎ら切是秋 順徳院

月皎如久 玉七 雲井にけき菊代かこもつ月より皎ら如れ官人 貞徳寺住

月皎千秋 玉七 まよの月と秋のあまにやあまれなれを寄 藤園寺住

菊咲多秋 玉十 花の代とす月よりも菊の咲きよせのさる 大徳院

月八 玉十 菊の白よりるるもさる代はさるをせらぬさる 貞園寺住

ちちやちの赤代のもも人よりちちの物とすも菊の花 八雲寺住

菊咲如如 玉七 新秋 花の代よりるるも菊の咲きよせのさる 二重寺住

落葉子秋 玉七 数れはさるるは菊のさるも人よりさるをせのさる 梅別寺

水石皎久 玉七 仙川のさるるのさるにせらるちては菊のさるの所 酒後頼朝住

松樹久矣 玉七 伝山久のさるのさるは菊のさるも人よりさるをせのさる 同

鶴咲鈴 玉七 わちれはさるるは菊のさるも人よりさるをせのさる 貞徳寺住

玉七

冒而見花 玉七 数れはさるるは菊のさるも人よりさるをせのさる 酒後頼朝住

玉七

各行見花 玉七 知れはさるるは菊のさるも人よりさるをせのさる 藤園寺住

玉七

范自有情 玉七 あまのさるるは菊のさるも人よりさるをせのさる 大徳寺住

月前自凉 玉七 花の代とす月よりも菊の咲きよせのさる 酒後頼朝住

送

逐年梅感 玉七 いくよのさるるは菊のさるも人よりさるをせのさる 貞徳寺住

逐季花感 玉七 老菊のさるるは菊のさるも人よりさるをせのさる 藤園寺住

逐日花感 玉七 まよのさるるは菊のさるも人よりさるをせのさる 水原住

逐日看花 玉七 咲くより菊のさるるは菊のさるも人よりさるをせのさる 小川住

二玉

欄をれちのさるるは菊のさるも人よりさるをせのさる 貞徳寺住

玉七

草花終用

いとすよまき花をさけり夕露のまれをさけりほろはら

花終用

花よりうみうりりり花原中花のあもさりやうらん

落葉終残

はるのまきのいしとんけりれうりいれふはるのむら

寒草終残

花をみれあうらにいよたあすらうらももさりて見

寒草終残

花をみてはるたののしりけにんけりやのうらんをみん

寒草終残

吹風のやめすまれをみんこりり花をみんぬをみん

寒草終残

花をみれあうらにいよたあすらうらももさりて見

辨

柳春

ちるひく緑やまうし柳花枝より花のまれらん風

柳春

こたふみちるれいさうらなうらなをみんぬをみん

柳春

花をみんぬをみんぬをみんぬをみんぬをみんぬ

柳春

花をみんぬをみんぬをみんぬをみんぬをみんぬ

柳春

花をみんぬをみんぬをみんぬをみんぬをみんぬ

正七

依花忘家

花をみんぬをみんぬをみんぬをみんぬをみんぬ

依花忘家

花をみんぬをみんぬをみんぬをみんぬをみんぬ

依花忘家

花をみんぬをみんぬをみんぬをみんぬをみんぬ

依花忘家

花をみんぬをみんぬをみんぬをみんぬをみんぬ

依花忘家

花をみんぬをみんぬをみんぬをみんぬをみんぬ

依花忘家

花をみんぬをみんぬをみんぬをみんぬをみんぬ

依花忘家

花をみんぬをみんぬをみんぬをみんぬをみんぬ

依花忘家

花をみんぬをみんぬをみんぬをみんぬをみんぬ

依花忘家

花をみんぬをみんぬをみんぬをみんぬをみんぬ

鴉のあさこい月乃乳をみてなるた火のあさこい

明かしたるやまをささるもんちゆれをれんあさこい

娘の月来しくをさかへけりて涼き涼のさゆ地

友をぬきりれ志あねきして月水とまきあさこい

年くれしむらぬあゆむの月とまねなる松風を

松風忘友 文明 六 山陰うきまは涼し松風をいれぬあさこい

野泉忘友 経権 吟五 蝉れ羽のさやうんあなをいりるまのせのこ

むらあゆみのぬらうんあなをいりるまのせのこ

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

下らぬあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

代 六 代 六 人あさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

替身情記 元 懸 元 二橋むらぬあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

あさこいあさこいあさこいあさこいあさこいあさこい

漸傾月

立出てうつろひてうつろひてぬる月よれ月めぬまると

後鳥羽院
大政大臣

五

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

前中納言
藤原朝臣

五

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

前中納言
藤原朝臣

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

前中納言
藤原朝臣

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

前中納言
藤原朝臣

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

前中納言
藤原朝臣

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

前中納言
藤原朝臣

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

前中納言
藤原朝臣

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

前中納言
藤原朝臣

談

月夜談往

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

後鳥羽院
藤原朝臣

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

後鳥羽院
藤原朝臣

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

後鳥羽院
藤原朝臣

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

後鳥羽院
藤原朝臣

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

後鳥羽院
藤原朝臣

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

後鳥羽院
藤原朝臣

おもとに林の表に敷きいて包り月めぬまると

後鳥羽院
藤原朝臣

あはれも枝まらう風をうかてぬきもたかひ

世にいらして是風うもあまふとてはもたきくひ

りくもくさくさあひかすふくも風よたつ

風静も橋方まれば枝まらう吹風は橋のあひま

是吉 あまのこ 吹風よたつものあひま

軒下まらう吹風よたつものあひま

秋高早に若林のゆたはれ月半に朝霧に

折に暮秋 高屋長治元月 今あり あまのこ 吹風のあひま

日 あまのこ やまやうのこまづつぬく

菊最競芳 あまのこ 吹風のあひま

あまのたれり あまのこ 吹風のあひま

近年菊 あまのこ 吹風のあひま

菊 あまのこ 吹風のあひま

久吉 あまのこ 吹風のあひま

歳

柳蔵寫樹 あまのこ 吹風のあひま

岸柳蔵橋 あまのこ 吹風のあひま

室柳花水 あまのこ 吹風のあひま

室の河原柳 あまのこ 吹風のあひま

室柳花橋 あまのこ 吹風のあひま

河見 あまのこ 吹風のあひま

室柳 あまのこ 吹風のあひま

室柳 あまのこ 吹風のあひま

室柳 あまのこ 吹風のあひま

室柳 あまのこ 吹風のあひま

歎冬花橋 あまのこ 吹風のあひま

かあ あまのこ 吹風のあひま

かあ あまのこ 吹風のあひま

かあ あまのこ 吹風のあひま

かあ あまのこ 吹風のあひま

かあ あまのこ 吹風のあひま

山頂を折るや人のさうらん格もあらまはるも地風 良暹法師

紫藤花松金 松風のよもせむらひの道もよほしむるもまほしき日

卯花露水 せむらひの道もよほしむるもまほしき日 平忠慶法師

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 前中納言定家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 前大納言定家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 後拾遺院

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 道宣院前

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

卯花露水 卯花の枝をたなりの道もよほしむるもまほしき日 持大納言政家

昔の念をばれは八重のつらねにやうねのしめり

甲やうつらつとまをたまはれ下よむいんてんの春の望

高蔵内路 里のこほいでゆらんよの海をうらむらんとも音あけり

と御の音にあやむしをらんむしをいふもてはあは

けいふらぬぬとまをたまはれ下よむいんてんの春の望

まのつらねのよのつらねのつらねのつらねのつらね

新なるかよふいんてんのつらねのつらねのつらね

まのつらねのよのつらねのつらねのつらねのつらね

水草内路 水もくさきもくさきもくさきもくさきもくさき

夜寒重食 さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

さゆりよれかしこもつらねのつらねのつらねのつらね

五月幽

中天の月よあはれ奥にこゝろいんてんてんけれあこる

心やあめの袖よつとまはれて花の音もいふはあつ月

其のあはれをよまのめもあはれもあはれもあはれも

月もあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

今あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

もあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

もあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

もあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

もあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

もあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

幽栖春月

幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月

幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月

幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月

幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月

幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月

幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月

幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月

幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月 幽栖春月

旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜 旅泊寒夜

甲五 幽

幽栖其雨

こころ切て庭こつら八重藤んよもあぬ雨さへりし

後拾遺反

幽居幽

つらしけれ 秋もれ音もね風うらすまのりうら

道遠院前

幽栖藤

中りまをいしさいらにたより清らうもれ秋さうえ

自常親王

可鳥声幽

かこころと夕もいもれし可鳥のまもれ音のそらに鳴り

藤原清輔

幽栖秋木

いづこもくんとつらあそんあての庭も音もさうらん

道遠院前

秋風のたよりさうやういよれ秋のまもれ音もさうらん

後拾遺

うらももあふさう一草れ音のまもれ音もさうらん

春深院

初鳥

初鳥風またさうさ方のわかれなもくいらんくり鳥の声

中務卿

初月

とれましんはゆももくらぬ松さうまもれるはうすは月のま

後拾遺

鹿声

鳴鹿のひらさやうん鹿の尾の月ひりつるま

春深院

初衣

立てて初衣のまらひも秋のそらに鳴りしあさうらうけ

道遠院前

幽夕

夕もあそんあふさうちの音もさうらん

春深院

公水音

公水音もさうらんあふさうちの音もさうらん

頼家

幽栖

いづこもくんとつらあそんあての庭も音もさうらん

伏見院

依風梅

依花より

依花待客

依花待人

依花惜玉

依月思秋

依處月明

春ふあけさくくともくも梅うえは風たよりとまらぬや
後醍醐天皇

むたり道はまらぬさきもさきもさきもさきもさきも
道達院
大后

山梅たよりとまらぬとまらぬとまらぬとまらぬとまらぬ
隆憲宗相
大后

まきてまきてまきてまきてまきてまきてまきてまきて
後拾遺
大后

待てて待てて待てて待てて待てて待てて待てて待てて
道達院
大后

笑むの客とて人かたをたれは侍梅たつことよまらす
後醍醐天皇
大后

あはれつとまらぬとまらぬとまらぬとまらぬとまらぬ
春海院
大后

白くともさきもさきもさきもさきもさきもさきもさきも
後醍醐天皇
大后

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
道達院
大后

あはれつとまらぬとまらぬとまらぬとまらぬとまらぬ
後拾遺
大后

氣さきよさきよさきよさきよさきよさきよさきよさきよ
道達院
大后

あはれつとまらぬとまらぬとまらぬとまらぬとまらぬ
春海院
大后

依月客

あはれなる月の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
水邊法師

こころは月をみる人の影をみれば
あはれなる月の影をみれば
長夏寺

依水客

あはれなる水の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
花水法師

依君侍人

あはれなる君の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
今上御製

忠統
集

あはれなる君の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
後拾遺

依花侍春

あはれなる花の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
花水法師

忠統
集

春宮呼客

あはれなる宮の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
後拾遺

あはれなる宮の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
道遠院

あはれなる宮の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
後拾遺

あはれなる宮の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
春宮呼客

あはれなる宮の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
春宮呼客

忠統
集

初月横

あはれなる月の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
道遠院

あはれなる月の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
後拾遺

あはれなる月の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
道遠院

あはれなる月の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
後拾遺

あはれなる月の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
後拾遺

あはれなる月の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
後拾遺

あはれなる月の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
後拾遺

忠統
集

春情寄花

あはれなる花の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
太政大臣

寄花灯

あはれなる灯の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
後拾遺

秋情寄秋

あはれなる秋の影をみれば
しづかに思ふ人の影をみれば
後拾遺

秋心寄萩 夕と暮られぬにさうか萩といふ心とや守り萩の上にお
情寄女島 胡夕よりよきとるく由恵もん金さつりやうれおき方
後指原後 後指原後

寄菊雜 心ちてにわらうとや山つんの垣はさけるまゝ菊はれ
心ちてにわらうとや山つんの垣はさけるまゝ菊はれ
永海法師 順徳院法皇

五十 對

対花孤老 文に又花のよもくんめれいと花のよもくはさそりか
対月懐花 ありけのあまきとくく梅を月とておひさし
後指原後 初撰

夕對卯花 月よらんやせのいそれちやうくゆたよとらぬ
對泉侍友 いらのいそれ水と枯いつ屋るつてまよとらん
二座屋後 藤原基俊

對水待月 二金のあれ月まのりのはすまはたき火を枯いつ
二金のあれ月まのりのはすまはたき火を枯いつ
後指原後 藤原基俊

對泉を友 雲をれんむすくぬ火のんかたものいさうられなやまつん
對家思燈 くの宿にせまらるる花をれい空よとの花とるれ
大に志云 後指原後

對山侍月 待りてとほなうらん月のりてよま及山とるれ
んちてよらんこと待てしてくつちやとてかづり
道達院后 後指原後

獨對月 玉のぬくよれく月を待出つ下まらうりく花萩の心
對月悲音 大のあつねむくくと悲つては月とるくつ家洞れ
後重虎宗製 後指原後

對月同音 抄早のやそくまてい空の月かつぬ花の教いあり
對月侍客 月くや待出つよれ花のえとてらん人の心とらん
道達院后 後指原後

對月借秋 五の月よらうとあすくくわすてくく花の心
終日對菊 仙人のほまよるた日氣とてうアてくくや菊のうら
道達院后 後指原後

對菊侍月 咲菊の色よも月とて氣のりぬる山落ちやん
終夜對菊 新のゆきのころもはくあつせうりく菊のうらかに
後守原后 後指原後

對菊惜杖 うつりり菊とてくくはけりれいせんくハ萩のこまん
大に志云 後指原後

心多に空の南よりうらうらとすもねむるる

拾遺 下 定家 下 定家 下

射月懐仰後拾 射月懐仰十五 射月懐仰十五 射月懐仰十五

五十二 向

友向泉五十六 友向泉五十六 友向泉五十六 友向泉五十六

向山倚月明月者 向山倚月明月者 向山倚月明月者 向山倚月明月者

向烟火 向烟火 向烟火 向烟火

理火五十二 理火五十二 理火五十二 理火五十二

灰のいろ五十二 灰のいろ五十二 灰のいろ五十二 灰のいろ五十二

五十二 為作成

常為友 常為友 常為友 常為友

藤為五十二 藤為五十二 藤為五十二 藤為五十二

玉五十二 玉五十二 玉五十二 玉五十二

泉為友五十二 泉為友五十二 泉為友五十二 泉為友五十二

為者恒 為者恒 為者恒 為者恒

持衣為五十二 持衣為五十二 持衣為五十二 持衣為五十二

若為衣五十二 若為衣五十二 若為衣五十二 若為衣五十二

松為五十二 松為五十二 松為五十二 松為五十二

竹為師 竹為師 竹為師 竹為師

永五十二 永五十二 永五十二 永五十二

為天所五十二 為天所五十二 為天所五十二 為天所五十二

五十二 作

卯五十二 卯五十二 卯五十二 卯五十二

高五十二 高五十二 高五十二 高五十二

尋山之池 七言
 空の山に雲の影を映して
 池の水は清く静かに
 月影を照らす如く
 遠くは山影の如く
 道徳法製

梅香漆衣 五言
 梅の花は香るに似たり
 漆の衣は光るに似たり
 梅の影は池に映る
 漆の衣は身に似たり
 梅の影は池に映る
 漆の衣は身に似たり
 梅の影は池に映る
 漆の衣は身に似たり
 梅の影は池に映る
 漆の衣は身に似たり

草漆油 四言
 草の影は池に映る
 漆の油は身に似たり
 草の影は池に映る
 漆の油は身に似たり

海漆山 五言
 海の水は清く静かに
 漆の山は光るに似たり
 海の水は清く静かに
 漆の山は光るに似たり

雲漆衣 五言
 雲の影は池に映る
 漆の衣は身に似たり
 雲の影は池に映る
 漆の衣は身に似たり

池水漆藍 五言
 池の水は清く静かに
 漆の藍は身に似たり
 池の水は清く静かに
 漆の藍は身に似たり

霞漆衣 五言
 霞の影は池に映る
 漆の衣は身に似たり
 霞の影は池に映る
 漆の衣は身に似たり

花漆春也 七言
 花の影は池に映る
 漆の春は身に似たり
 花の影は池に映る
 漆の春は身に似たり

新十 七言
 新の影は池に映る
 漆の十は身に似たり
 新の影は池に映る
 漆の十は身に似たり

月 七言
 月の影は池に映る
 漆の月は身に似たり
 月の影は池に映る
 漆の月は身に似たり

女 七言
 女の影は池に映る
 漆の女は身に似たり
 女の影は池に映る
 漆の女は身に似たり

花漆山氣 七言
 花の影は池に映る
 漆の山は身に似たり
 花の影は池に映る
 漆の山は身に似たり

下 七言
 下の影は池に映る
 漆の下は身に似たり
 下の影は池に映る
 漆の下は身に似たり

下 七言
 下の影は池に映る
 漆の下は身に似たり
 下の影は池に映る
 漆の下は身に似たり

下 櫻花にや〜まきもいづつ〜おふもあつて 後信房

日たてしう神つる山はき〜くれし〜はる風吹日

松色添春 日影代もはねたれきぬ宿の松又あつ〜はまあつせそ 日

後集 五言七 八何あしちぬか〜その松は〜うまあつり 順徳院法皇

竹添春色 聲方 久方れき井れをの川竹のそりも〜 新代乃ら

三集 春竹添色 新集 新代のま〜とつりぬまにらて〜ふ宿のくれしけ 福正寺南白

月 交りぬんも世と〜あつちま〜さこれ竹乃又れ〜ら

後集 暁添虫声 虫流音もねの風殺や〜むん〜も〜る声も為 大徳寺南白

暁添虫声 虫流音もねの風殺や〜むん〜も〜る声も為 大徳寺南白

虫声添 虫流音もねの風殺や〜むん〜も〜る声も為 大徳寺南白

池月添光 新後 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

新後 池月添光 於九 夕前に声立らむ〜り〜も〜月り〜も〜て〜ま〜るれ 大徳寺南白

日 玉 ちりしむ 此の木の梢うすくしりふお花のあやも 康光

玉 みのきもつとむらさきとわも内五よあつとさのねあを 徳位 康庵

松葉色 玉 七 玉 美代とまにのせて松のあつたをりも文をせん 康助 康庵

くれとらんも若も松よ海をうらたんのかきれ其風 後拾 康庵

きとせとをうらえの松のあつたをりも文をせん 月

あつたをりも文をせん 月

須禰 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 康助 康庵

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

松葉色 玉 七 玉 美代とまにのせて松のあつたをりも文をせん 康助 康庵

くれとらんも若も松よ海をうらたんのかきれ其風 後拾 康庵

きとせとをうらえの松のあつたをりも文をせん 月

あつたをりも文をせん 月

須禰 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 康助 康庵

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

吟 後 吟 浅きうらたんの松のあつたをりも文をせん 月

菰鹿虫 十音 高あつふふ平れをけととさあはく者なりあつあつの中を狂 後漢書

洞窟麻 新編 五 押麻のあつりおれおれをけたんをくぬきとてん 在信長為教

洞窟月 白鳥 たり月丸流杯の床やちをいづかきいそよあそ川りあ 妙光寺に在

旁鹿代 七音 後まやるるついでらむせよとほのこさるまあは 在信長為教

新編 いこころよきぬに風吹ぬしうたをうらむぬたれ 妙光寺に在

十音 旁の洞よりすなわのこまねなまじまをぬ浪の色は 長谷寺に在

大井川 後抄 代のたのむのちやうたをうたえぬれぬるる 同

いこころよきぬに風吹ぬしうたをうらむぬたれ 同

松老洞窟 後抄 十六 美代の娘をてまてととてりるるる 同

一 五 ぞうかいらうちをせの妙るんねのあそられぬいふ 在信長為教

新編 十八 すみれをてまてりるるるるる 在信長為教

鹿娘傳 音 廿 且のころ衣れぬいのちうしはらあともめやうららん 在信長為教

山いれぬるるるる 在信長為教

こころよきぬに風吹ぬしうたをうらむぬたれ 在信長為教

傳

風傳隣家 有 楓あさむりにいふ風を巻きた里うられ 在信長為教

人傳歌云 新 十 内もさつとあつり人 在信長為教

新 十 内も人傳よのちをたあのかさ 在信長為教

新 十 内もさつとあつり人 在信長為教

新 十 内もさつとあつり人 在信長為教

新 十 内もさつとあつり人 在信長為教

新 十 内もさつとあつり人 在信長為教

浦傳十音 在信長為教

常見花十一 咲くやうな花をよみし人の心にも花は似たり

今川虎小製

連十四

連十五 ちかぬとたの月白を流川のありしにいでせしむ

道遠虎角

連十六 峯立のそり花をいづくれきりむしきえ

後拾遺法製

連十七 峯立のそり花をいづくれきりむしきえ

月

連十八 峯立のそり花をいづくれきりむしきえ

道遠虎角

連十九 峯立のそり花をいづくれきりむしきえ

後拾遺法製

連二十 峯立のそり花をいづくれきりむしきえ

後拾遺法製

連二十一 峯立のそり花をいづくれきりむしきえ

後拾遺法製

連二十二 峯立のそり花をいづくれきりむしきえ

後拾遺法製

連二十三 峯立のそり花をいづくれきりむしきえ

後拾遺法製

連二十四 峯立のそり花をいづくれきりむしきえ

後拾遺法製

連二十五 峯立のそり花をいづくれきりむしきえ

後拾遺法製

連二十六 峯立のそり花をいづくれきりむしきえ

後拾遺法製

連二十七 峯立のそり花をいづくれきりむしきえ

後拾遺法製

連二十八 峯立のそり花をいづくれきりむしきえ

後拾遺法製

連二十九 峯立のそり花をいづくれきりむしきえ

後拾遺法製

九 夕る暮なるちるなめくもたにまされ萩のうとせ
道徳虎前
大辰
源法法師

單花告秋金 嘆よる朝の原はあや花ね
源法法師

日 嘆えしり原のあや花ね
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

梅告春を
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

源法法師
源法法師

永平
三十二

人のいひくまのきれし道よもしくし釣の心とく身ん

道達院
大尼

香雪積年 何くしやあせしうね星のなをせんくわんきれ閑らぬれ

道達院
大尼

并過積年 ちみきしはくしきよらくしきよきしきよ今に

道達院
大尼

松積年 首 ちりてゆくいづらぬし海山小松の命と名をかくしれぬ

道達院
大尼

辛酉
馬

鶯馴 ちりてんちりて 研た人あらんぬのうらむれし心

道達院
大尼

水鳥馴 鶯 ちりてんちりて 水鳥とたれけしきよきしきよ

皇后宮
大尼

日 比ぬとせけけしきよきしきよきしきよあられ村も

大守宮
大尼

日 社ぬいしきよきしきよきしきよあらわら

源仲法

日 ちりてんちりて ちりてんちりて ちりてんちりて

隆信
大尼

水鳥馴 水鳥の為しきよきしきよきしきよあらわら

後拾遺
大尼

あまのつらぬき 若るに ちりてんちりて ちりてんちりて

後拾遺
大尼

ちりてんちりて ちりてんちりて ちりてんちりて

道達院
大尼

水鳥馴 水鳥のうらむれし心 ちりてんちりて ちりてんちりて

後拾遺
大尼

あまのつらぬき 若るに ちりてんちりて ちりてんちりて

後拾遺
大尼

ちりてんちりて ちりてんちりて ちりてんちりて

日

あまのつらぬき 若るに ちりてんちりて ちりてんちりて

後拾遺
大尼

ちりてんちりて ちりてんちりて ちりてんちりて

参議俊経

花上鶴馴 ちりてんちりて ちりてんちりて ちりてんちりて

女房

日 ちりてんちりて ちりてんちりて ちりてんちりて

月

鶴馴 ちりてんちりて ちりてんちりて ちりてんちりて

新録
古七

日 ちりてんちりて ちりてんちりて ちりてんちりて

後拾遺
大尼

日 ちりてんちりて ちりてんちりて ちりてんちりて

後拾遺
大尼

日 ちりてんちりて ちりてんちりて ちりてんちりて

後拾遺
大尼

日 ちりてんちりて ちりてんちりて ちりてんちりて

後拾遺
大尼

日 ちりてんちりて ちりてんちりて ちりてんちりて

後拾遺
大尼

日 ちりてんちりて ちりてんちりて ちりてんちりて

後拾遺
大尼

細代群遊

一松五

さよ更て細代まのりし法入とんもわくや字法乃川のせ 華信法

吾満慈山

新後古六

つてふ山と山屋山とくくして物多けけりつりり吾ら 華信法

悪徳集 七十五 浩

春の音松真つくはのりなりあしきん 松 後抄之雅親

柳浩落丸

あふれ柳花枝よじとてわくぬきつ枝よ百いおれ 花園友信

存樹浩葉二金

むりてををいりも成よりこやけりて 後抄之雅親

をの面は月りぬまてありよりう梅よまのをもまをりて 後抄之雅親

水抄法

さしあの花の葉も池あめはまのりたてををりて 後抄之雅親

風をんぬきいんまきしはの面水草すいりす水せり 日

ひるやじさるれ水のいつてとるらあまはあえとが 後抄之雅親

一宮

はあしとすやあの水ときとちてをとくく水あなを 後抄之雅親

四合

岩川のもよよむす水をうりてたかひなりけれ 花園友信

池水院法月清

明方れ浪るれ月やさしぬらんさけり水音居はる池

後醍醐天皇
大徳寺

沈み法水

風をゆく昔の池はゆかたをあらはれぬやとるるん

平徳雅相

水邊安鐘後春
集

けりあまなる水のさらりて身やわびのうたねまぬん

大徳寺

法領

集

為ちつるさけにち鳴きけりよけりしはまのしん

鴨長明

集

かまのけり杖えんしつゝのまふかまのぬまをほり

明徳院

内宮大徳寺
集

神をくもるるんまきつるし老の神をれ内なるは

大徳寺
集

春色浮水

なつらるる色ゆきとせし水よきまのいらんはれ

保守園春

梅浮水

まつりまふたにけりしるるり水のき浪をまふた

道遠及前
大徳寺

落梅浮水

梅のれりつゝのせり水のとるをんやまのりん

後柏倉
藤原氏

た浮水

かきつるあつあつとせし水よきまのいらんはれ

藤原氏

花浮水

さかすか花のけりしるるる水の風のしん

後醍醐天皇

桃花浮水湖池
集

あつあつ花のけりしるるる水の風のしん

日

萩花浮水

あつあつ花のけりしるるる水の風のしん

日

月浮山河

あつあつ花のけりしるるる水の風のしん

藤原氏

月浮流河

あつあつ花のけりしるるる水の風のしん

藤原氏

菊浮水

あつあつ花のけりしるるる水の風のしん

藤原氏

花埋古

梅のこもるさかづかむもの文きたりつらりしとれ

道遠虎前

落葉切菊

切てみらるるあつらひはりしちや菊のさけりしとら

家隆

霜埋落葉

霜はひりるをのほれ葉とすのわたりしはりしとれ

後人

朝霧のなれもつらりしはりしとら

後協定家

新なる面よなりのまことつらりしとら

或久月登

こりつて葉さしつらりしとら

道遠虎前

落葉埋路

妙しきとらつらりしとら

藤奈津浦

落葉埋橋

小食山果のちりつらりしとら

後久文子

今更しとらつらりしとら

春深雅道

落葉埋水

山屋やうけはもやねのちりつらりしとら

惟宗隆頼

落葉埋石

つらりしとらつらりしとら

後徳法師

落葉埋河

ありりしとらつらりしとら

後徳法師

落葉埋土

ありりしとらつらりしとら

後徳法師

あつらひはりしとらつらりしとら

道遠虎前

たつらりしとらつらりしとら

春深雅道

落葉埋徑

つらりしとらつらりしとら

大徳江り宗

つらりしとらつらりしとら

法性庵通示

落葉埋路

つらりしとらつらりしとら

藤奈津浦

つらりしとらつらりしとら

後徳法師

落葉埋橋

つらりしとらつらりしとら

大徳江り宗

落葉埋松

つらりしとらつらりしとら

後徳法師

つらりしとらつらりしとら

大徳江り宗

つらりしとらつらりしとら

道遠虎前

落葉埋行

つらりしとらつらりしとら

山家集上

つらりしとらつらりしとら

後徳法師

望

春晴眺望

月影のまろしき面影のぼかし月のひらき

望山侍

新葉 山橋のなほるい音にきこえたる月影の月 皇太子宮史

望山侍

新葉 白雪のなほ川山の山橋いつまもをりぬきしき 皇太子宮史

晚望山侍

無月ありぬる山橋いつまもをりぬきしき 藤原公家

山中春望

玉 鳥の音のよき山橋いつまもをりぬきしき 藤原公家

春日望山

後松 風りりよれ下道いよむて花のりくくすき 藤原公家

望山春望

玉 花の音のよき山橋いつまもをりぬきしき 藤原公家

望山春望

玉 花の音のよき山橋いつまもをりぬきしき 藤原公家

望山春望

玉 花の音のよき山橋いつまもをりぬきしき 藤原公家

望山春望

玉 花の音のよき山橋いつまもをりぬきしき 藤原公家

望山春望

玉 花の音のよき山橋いつまもをりぬきしき 藤原公家

一日 紅葉の露のさしに松のえにさせしつゝぬほろのけしき 大上天皇

一日 浪波のやまのささし梅の香のけしき 前大納言家

一日 入目さすまはせし海やうらなひのけしき 井内侍

志望遠 新 井の井さす浪やうらなひのけしき 今上は親

秋望 七 夕日うつらともの杜のうすれささしにけしき 今上は親

月夜望 三星 初めの月さすまはせし海やうらなひのけしき 前大納言家

初望 浪屋 いらさすまはせし海やうらなひのけしき 前大納言家

度沃池 眺望 任徳てしるにけしき 後大納言

空にさす月うつらとぬえさすまはせし海やうらなひのけしき 後大納言

城外 眺望 下 日さすまはせし海やうらなひのけしき 後大納言

行路 秋望 八 日さすまはせし海やうらなひのけしき 後大納言

水鳥 秋望 水鳥のけしき 後大納言

古風 月 玉 けしき 大信意法

秋夜 望 けしき 後大納言

松中 眺望 けしき 後大納言

冬 望 けしき 後大納言

曉 望 山 けしき 後大納言

雪中 眺望 けしき 後大納言

雪中 眺望 けしき 後大納言

雪中 眺望 けしき 後大納言

雪中 眺望 けしき 後大納言

雪中 眺望 けしき 後大納言

雪中 眺望 けしき 後大納言

雪中 眺望 けしき 後大納言

雪中 眺望 けしき 後大納言

雪中 眺望 けしき 後大納言

雪中 眺望 けしき 後大納言

雪中 眺望 けしき 後大納言

杜^信

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

中務^信

残の風

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

道達^信

云残の

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

日^信 柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

日^信 柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

十^信

関の残

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

首を残

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

あいらすくもさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

道達^信

残雪

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

日

首を残

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

残春

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

新^信 柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

残月

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

道達^信

四^信 柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

曉天残月

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

孤鶴残月

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

古寺残月

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

身残

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

五葉残

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

残秋

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

首杖

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

残菊

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

後

柳のしほをさう下の八重櫓一きつとちちもちちも

後^信

月 ちやんていさるたけの満ちかたしつよはたしんたか 延徳御製

新後 頼朝のまうとせは高たふれし目ましめて及ぬは 藤原隆頼下

多尾 如きうたけいかりのそくをねむたけの頼朝まうまに 如河法師

夕残菊 其あまのり光とまてたつた菊のまうまにたつらひぬを 頼徳隆頼製

云残菊 前云あまのり及とまぬねむらうまのうらぬ白菊の巻 其家文深魚

夜残菊 八をたぬよたのあまのりたつたの頼朝まうまに 後家文深魚製

敷残菊 さいしてまうまのれは花のまをれしむすふれとまに 道徳隆頼肉

田残菊 村居のうらた田よあかりたのあまのりやねまのりしん 後拾遺反

表也残菊 表とゆかり田の白に月あて春まのりつる厚た一つ 其家文深魚

吾中残菊 かりやまのりうらにあまのりもねまをれいもまをれ 後拾遺反

越海ありあまのりやうねまをれいもまをれいもまをれ 道徳隆頼肉

吾中残菊 吾中残菊にねまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 林有隆頼肉

延 延は厚たの今とつひもようたのまのりまにわつてん 後拾遺反

延 延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延 延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延 延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延 延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延 延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延 延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延 延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延 延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延 延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延 延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延 延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延 延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延 延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延 延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

伴前延齡

見た延齡 對菊延齡

年菴延友

十五 贈

延は厚たの今とつひもようたのまのりまにわつてん 後拾遺反

延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

延れいもまをれいもまをれいもまをれいもまをれ 後拾遺反

二月落衣新吉 物ちりす風よしてや吹つらん 雲れ袖もさく 康賢玉母

落花 下 赤あすも花あふくちも梅たもりきりえりん 彦根花音水 延位家隆

花落晚風 夕もぬれれとつちり 且風いたしとひしと物もあはる 克孝法印

花落枝揺 梢もぬれれとつちりて 梅もれ花の面もさくしりりたれ 良暹法師

雲雀落 且うつた葉れんふの夕いりり 海くつりなもされやみし 後抄多良

空空三 空くして床あささるも 夕りりるあはゆめいしと在るあり 後抄多良

夕いりり水たる空にわたりて 夕つる草もれ花やあけは 道達法印

今いりり夕もさくしりり 夕いりり床も草もれ花やうはにや 大良

かすして夕もさくしりり 夕いりり草もれ花やうはにや 後抄多良

夕もさくしりり 夕いりり草もれ花やうはにや 未深法隆

夕もさくしりり 夕いりり草もれ花やうはにや 後抄多良

夕もさくしりり 夕いりり草もれ花やうはにや 後抄多良

夕もさくしりり 夕いりり草もれ花やうはにや 後抄多良

節

遥奉節晚辰 菅原やうしよのさかふるけはつくの山も立ちあすみかみ 和河法師

梅は節雪 白雪れさくぬりりり梅も香えらうととんころりりたれ 藤原教叙

野草草 野草のさくたわらぬめここりり 夕もさくしりり 後抄多良

野草草 野草のさくたわらぬめここりり 夕もさくしりり 後抄多良

野草草 野草のさくたわらぬめここりり 夕もさくしりり 後抄多良

野草草 野草のさくたわらぬめここりり 夕もさくしりり 後抄多良

野草草 野草のさくたわらぬめここりり 夕もさくしりり 後抄多良

野草草 野草のさくたわらぬめここりり 夕もさくしりり 後抄多良

野草草 野草のさくたわらぬめここりり 夕もさくしりり 後抄多良

野草草 野草のさくたわらぬめここりり 夕もさくしりり 後抄多良

野草草 野草のさくたわらぬめここりり 夕もさくしりり 後抄多良

野草草 野草のさくたわらぬめここりり 夕もさくしりり 後抄多良

野草草 野草のさくたわらぬめここりり 夕もさくしりり 後抄多良

庭草帯糸整なれば庭のわらも糸とてあがりしとていひのしほや 兼信兼信法
長松帯整まじく入りに見せてはもれかへわらも糸の松原 後信後信院

五十二

惜上 惜れぞまつし風のたけつらういあわらうれあういあ 従三位家隆

後 惜れぞまつし風のたけつらういあわらうれあういあ 山彦山彦

新 惜れぞまつし風のたけつらういあわらうれあういあ 菅原菅原

二 惜れぞまつし風のたけつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

深きそつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

いづつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

あつらひつらういあわらうれあういあ 後拾多尾

借月

^五下 下 下 下 下 下 下 下 下 下
いとせんれく今も月の見とるを友と月よきあはひ
信太 此の月の見とるを友と月よきあはひ
中務卿良 記

曉借月

^五後 此の夕月のあはひを友と月よきあはひ
中務卿良 記

水邊借月

水邊借月 此の夕月のあはひを友と月よきあはひ
中務卿良 記

独借月

独借月 此の夕月のあはひを友と月よきあはひ
中務卿良 記

園路借月

園路借月 此の夕月のあはひを友と月よきあはひ
中務卿良 記

借秋

借秋 此の夕月のあはひを友と月よきあはひ
中務卿良 記

終夜借月

終夜借月 此の夕月のあはひを友と月よきあはひ
中務卿良 記

独借言

独借言 此の夕月のあはひを友と月よきあはひ
中務卿良 記

借言

借言 此の夕月のあはひを友と月よきあはひ
中務卿良 記

字者借年

字者借年 此の夕月のあはひを友と月よきあはひ
中務卿良 記

思徳

春月憶昔

春月憶昔 此の夕月のあはひを友と月よきあはひ
中務卿良 記

思花

思花 此の夕月のあはひを友と月よきあはひ
中務卿良 記

思思

思思 此の夕月のあはひを友と月よきあはひ
中務卿良 記

思思

思思 此の夕月のあはひを友と月よきあはひ
中務卿良 記

思思

思思 此の夕月のあはひを友と月よきあはひ
中務卿良 記

三位家隆

中務卿良

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

後任

初は儂月 花をぬき袖に風をいそいでとてさしぬ月の人まらむ 後藤原俊

水戸 思ひしは風吹ぬとよりの月をぬき月の人まらむ 後藤原俊

早涼思ふ 月をぬき袖の衣きりぬきさしぬ月の人まらむ 後藤原俊

儂牛女 言西 天の雲はうららかにさしぬ月の人まらむ 後藤原俊

菘思 白鳥 音のうらやまの下のうらやまのうらやまのうらやま 後藤原俊

秋夕感思 七言 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 後藤原俊

望思月 後秋 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 後藤原俊

月前感思 後秋 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 後藤原俊

夜思水鳥 後集 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 藤原実朝

夜思山雪 後集 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 寂蓮法師

冬夜思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 寂蓮法師

雨夜思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 寂蓮法師

草花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 後藤原俊

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 藤原実朝

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 二重反履

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 二重反履

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 二重反履

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 二重反履

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 二重反履

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 二重反履

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 二重反履

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 二重反履

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 二重反履

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 二重反履

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 二重反履

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 二重反履

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 二重反履

夕花思 新後 月のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま 二重反履

梅葉風 惡規集 玉いづはあまのむらね風んやうして梅の香しき 後西之雅記
よりいづる梅の香しき 前中納言家

梅葉風 悪規集 さよひり風のたりの梅の香しき 後西之雅記
さらけけし梅の香しき 前中納言家

梅葉風 悪規集 さらけけし梅の香しき 後西之雅記
さらけけし梅の香しき 前中納言家

梅葉風 悪規集 さらけけし梅の香しき 後西之雅記
さらけけし梅の香しき 前中納言家

梅葉風 悪規集 さらけけし梅の香しき 後西之雅記
さらけけし梅の香しき 前中納言家

梅葉風 悪規集 さらけけし梅の香しき 後西之雅記
さらけけし梅の香しき 前中納言家

梅葉風 悪規集 さらけけし梅の香しき 後西之雅記
さらけけし梅の香しき 前中納言家

梅葉風 悪規集 さらけけし梅の香しき 後西之雅記
さらけけし梅の香しき 前中納言家

梅葉風 悪規集 さらけけし梅の香しき 後西之雅記
さらけけし梅の香しき 前中納言家

梅葉風 悪規集 さらけけし梅の香しき 後西之雅記
さらけけし梅の香しき 前中納言家

梅葉風 悪規集 さらけけし梅の香しき 後西之雅記
さらけけし梅の香しき 前中納言家

梅葉風 悪規集 さらけけし梅の香しき 後西之雅記
さらけけし梅の香しき 前中納言家

梅葉風 悪規集 さらけけし梅の香しき 後西之雅記
さらけけし梅の香しき 前中納言家

梅葉風 悪規集 さらけけし梅の香しき 後西之雅記
さらけけし梅の香しき 前中納言家

梅葉風 悪規集 さらけけし梅の香しき 後西之雅記
さらけけし梅の香しき 前中納言家

宿

水宿堂

玉

雲は海人の心をわすれぬ花もささけ涼しきかゝる公の心

後位家康

高見宿菊

新

かきくもたつともりきと白菊は花も中もささけ

後人不知

松宿月

集

里をこ月をんこも咲くぬきの花もまの風をう

藤原隆頼

書鳥宿林

集

又さし竹のうたのうもれ孫くわうもささけ

藤原隆頼

書林宿宿

いづるもれんをさしに成さしんをさしんをさしん

後拾遺

相ものささけささけささけささけささけささけ

日

くわいささけささけささけささけささけささけ

道遠院内
大后

ささけささけささけささけささけささけ

日

ささけささけささけささけささけささけ

日

ささけささけささけささけささけささけ

日

ささけささけささけささけささけささけ

後拾遺

ささけささけささけささけささけささけ

後拾遺

一つは縁くさあたら材もれもあまもりまはれ中が 同
うみものよまの下やこい風きて縁くさあたらまはれ
衛

春草漸遠 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍た 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

た源登 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

見つて桐葉をいなりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

葉かられまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

た源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

源侍 志つてふりむりまはれすかあのみはれ 藤原良房 全名

梅鹿の雨ののち風と萩のまじりておののちのちのちのち

破

教音破

一色りわしれあつるさる風とさるさるさるさるさる

後拾多尻

凡破

あつとむし思ひくけてまゝあつたれあつたれあつたれ

後拾多尻

草枕けて糸ぬきせんもあまのさるあつたれあつたれ

後拾多尻

松風破

あつとむし思ひくけてまゝあつたれあつたれあつたれ

後拾多尻

易

花鳥散

あつとむし思ひくけてまゝあつたれあつたれあつたれ

後拾多尻

夜月易明

あつとむし思ひくけてまゝあつたれあつたれあつたれ

後拾多尻

あつとむし思ひくけてまゝあつたれあつたれあつたれ

後拾多尻

あつとむし思ひくけてまゝあつたれあつたれあつたれ

後拾多尻

あつとむし思ひくけてまゝあつたれあつたれあつたれ

後拾多尻

あつとむし思ひくけてまゝあつたれあつたれあつたれ

後拾多尻

あつとむし思ひくけてまゝあつたれあつたれあつたれ

後拾多尻

あつとむし思ひくけてまゝあつたれあつたれあつたれ

後拾多尻

あつとむし思ひくけてまゝあつたれあつたれあつたれ

後拾多尻

あつとむし思ひくけてまゝあつたれあつたれあつたれ

後拾多尻

あつとむし思ひくけてまゝあつたれあつたれあつたれ

後拾多尻

あつとむし思ひくけてまゝあつたれあつたれあつたれ

後拾多尻

おんれつしつとらひる保戸とあしく物と山風の声

らゝぬるれ花よのこゝろいしとらひし力とて人れつと

花先の香もははきつとあつとむと何よとつと

何もあつとつとつとつとつとつとつとつとつと

いほつとつとつとつとつとつとつとつとつと

何もあつとつとつとつとつとつとつとつとつと

いほつとつとつとつとつとつとつとつとつと

何もあつとつとつとつとつとつとつとつとつと

いほつとつとつとつとつとつとつとつとつと

何もあつとつとつとつとつとつとつとつとつと

いほつとつとつとつとつとつとつとつとつと

何もあつとつとつとつとつとつとつとつとつと

侍

勅旨侍に 新 其まもつとつとつとつとつとつとつと

中 其まもつとつとつとつとつとつとつと

春よあつとつとつとつとつとつとつと

まろへんおまのあつとつとつとつとつと

あつとつとつとつとつとつとつと

おころふおれつとつとつとつとつとつと

たつとつとつとつとつとつとつと

あつとつとつとつとつとつとつと

あつとつとつとつとつとつとつと

あつとつとつとつとつとつとつと

後醍醐天皇

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

赤松義隆

尾残侍人

尋と人小やちとあつひのつ下つはむるのしる

津守園基

侍郭云

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

赤木地を為家

四日

家為の舟もあつひけきつては

白川院は製

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

あつひあつひさう月の何き人のんにまひりては

後拾遺集

月々 南風ひりぬき 舟の寸竹はめで

永中侍友

ちりせうすけいひらきもてんぬ月と来てさしつらふ

立侍月

いづれにたしむるに久き月とてしを 氣つても

日

人まじり侍ゆるるまじりめしつらつらつ男と

月

東海もやん中しきくもてさやぬけしよ三つ月

居侍月

をすりれきりあにぬきては月侍の秋のきわに

日

あふれつらひの侍月とてさぬきとてさぬき

月

いづれにたしむるに久き月とてしを 氣つても

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

月

さぬきとてさぬきとてさぬきとてさぬき

母中 けいしんりんをのりしんしんきんをのりしんしんけいしんりん

瞿麦勝花 秋田指ともやうりしんしんけいしんりんをのりしんしんけいしんりん

ゆきせしんきんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

まきりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

空 養うぬ風れち様もまのりんりんりんりんりんりんりんりんりん

ふのりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

秋に勝春 集 小枝原柳梅とてたませしんりんりんりんりんりんりんりん

秋まてともりしんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

煉依月勝 集 秋まてともりしんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

何れはまのりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

如月勝花 凡るりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

二月のりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

如月勝花 凡るりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

かきりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

落葉勝花 凡るりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

かきりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

梅文松芳 梅の香ハ柳梅の枝もやしんりんりんりんりんりんりんりんりん

梅の香ハ柳梅の枝もやしんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

梅柳文枝 抄 玉風よふいしんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

玉風よふいしんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

玉風よふいしんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

文花 玉風よふいしんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

玉風よふいしんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

玉風よふいしんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

玉風よふいしんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

玉風よふいしんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

玉風よふいしんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

玉風よふいしんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりんりん

杜信

さよ ちあれ神のつらさ 及ぬ枝のたわや 帆

十音 今いづる雲のたわや ちあれ神のたわや 帆

ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

十音 風吹尾のたわや ちあれ神のたわや 帆

十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

た文松 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

物尾文秀 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

鹿文秋 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

鹿文秋 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

紅葉文雨 十音 ちあれ神のたわや ちあれ神のたわや 帆

五真

集 ちろくしれまのしるしをいぢるんまもいぢるんまもいぢるん

順徳院御製

子自催真

子自する中も仰れねるしかりにもあぬや世のしけりも

通徳院御製

沼牛真

永享十四 ちろく人の物れあぢのまに根とにやあぢ人あぢりま

言有

秋真

集 月をいぢるすいぢるあんと猶もいぢるゆりりり

順徳院御製

秋催真

集 家 ちろくしれまのしるしをいぢるんまもいぢるん

順徳院御製

康声借真

白あんとくぬりまの麻のまもあんとくぬりま

後徳院御製

秋の声

永享 秋の声いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

通徳院御製

萩の心

萩の心いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

後徳院御製

中秋真

集 ちろくしれまのしるしをいぢるんまもいぢるん

太上天皇

秋の風

七 秋の風いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

後徳院御製

秋の風

喉 秋の風いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

入道院御製

秋の風

如 秋の風いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

後徳院御製

秋の風

新十 秋の風いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

後徳院御製

秋の風

五 秋の風いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

法皇御製

秋の風

いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

法皇御製

秋の風

集 秋の風いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

後徳院御製

雪中真

いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

後徳院御製

雪中真

いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

後徳院御製

雪中真

いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

後徳院御製

雪中真

いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

後徳院御製

雪中真

いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

後徳院御製

雪中真

いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

後徳院御製

雪中真

いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

後徳院御製

雪中真

いぢるんまもいぢるんまもいぢるん

後徳院御製

夏
歷
徑

備後御年

寛正四

水石屋御年

池水の氷も浪よしくうらうらまゝのそよ風の風

後花園院

雲根り所のむらや飛の尾乃山よりかぎふ鳥の声

月

天正十一
平九

池水のあゝ乃鳥かきまねたよせしやん天の羽衣

道遠院

くみくみぬきぬきぬきぬきの敷くくふ鳥成乃も

後花園院

いづ川よゝゝぬせぬせぬせぬせぬせぬせぬせぬせぬ

後花園院

すまみちのあやまけしれぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

後花園院

後後
後古
七

松屋の岩たけりしとゆふしそよのゆふしそよのゆふし

後花園院

後古
七

松屋の岩たけりしとゆふしそよのゆふしそよのゆふし

後花園院

松屋御年

備後
吟三

松屋の岩たけりしとゆふしそよのゆふしそよのゆふし

後花園院

おのののののののののののののののののののののの

後花園院

まうらん松をさゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

後花園院

徑日旅

百十
帯

かづらんやこいしの目教もねくもつねをうらま

後花園院

山路踏た

おのののののののののののののののののののののの

後花園院

らして人もさうじつももももももももももももももも

後花園院

天正
九三

山をくわん踏きたるものよきよきよきよきよきよきよ

後花園院

こうかきりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

後花園院

五
七
五

毎山有悲集 家風との情をうらとみわたりたすむれいとまらまにたり

くろきつみちさきせいのしほいふいふのきかけぬらん

月日 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

浪風をまじりてあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

けあはれいづれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

きりせうにさきさきあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

多きつていづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

後後 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

毎朝見たり後 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

後後 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

後後 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

毎年懸菱集 家風との情をうらとみわたりたすむれいとまらまにたり

毎長持集 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

日日 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

毎長持集 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

毎家集 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

月日 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

毎秋集 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

毎月明日 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

月日 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

毎朝集 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

毎人集 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

毎人集 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

毎人集 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

毎人集 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

毎人集 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

毎人集 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

毎人集 月をともすむすしとやのあはれあはれいづれもよきあはれ

花如雪

消をすたなりしとされおろしき雪をこつやばりしん

道達院

花如雪

あつちとみしきしつ花をいさしぬくうらうらけり

有徳

落花如雪

ちりぬまの光たうかまの目れしむかろる雪乃下水

藤原雅親

花如雪

おろくも今しつとあまうらきうたに差れしうらけり

藤原俊成

卯花如月

卯花のむしつげの恒縁とらるるの月乃氣とる見ん

白河院

新古

三

卯花のむしつげの恒縁とらるるの月乃氣とる見ん

増位臣子

夏月如秋

小萩のうらまゝとて花とるなま城せし麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

暖風如秋

冬れは秋風のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

晚涼如秋

夕のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

後秋

夕のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

水月如秋

水のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

新後

水風如秋

水のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

竹風如秋

竹風のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

水岸如秋

水岸のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

萩如錦

萩のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

源如玉

源のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

秋月如畫

秋月のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

明月如畫

明月のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

秋月如畫

秋月のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

明月如畫

明月のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

秋月如畫

秋月のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

明月如畫

明月のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

秋月如畫

秋月のうらまゝとて涼しき麻やこも女月と信ん

藤原敏仲

新菊如雪

五 高きうすうたのこまつりー心ざいーめん白菊

兼盛行慶

菊粧如雪

うらへそりきほふふふと及てむしー

後白河信

紅葉如碎

白妙の独れありまみー菊のがまぬるるのれを

後白河信

紅葉如雪

れ糸くー立向のほり水のちやにさしてさうり

後白河信

わくたぬさーまーぬねのこーをりそけ
しちろーおーめんやーそちーのめい

後白河信

且風のれまーちー酔のたを柱くーあや

後白河信

紅葉如雪

よの葉を宿まーさーさーさーさーさーさー

後白河信

紅葉如雪

わーのちろーさーさーさーさーさーさー

後白河信

山家如雪

くれやうー同教やうー情ん梅くーさー

後白河信

山家如雪

さうあうさーさーさーさーさーさー

後白河信

竹風如雨

あまの風のまゆーん神かつさーつーおまぬ

後白河信

風吹くさーさーさーさーさーさー

後白河信

むーあさうさーさーさーさーさーさー

後白河信

くれ竹の窟んさーさーさーさーさー

後白河信

すまーさーさーさーさーさーさー

後白河信

二系さるれーりーて清さーれー

後白河信

見たる友

たやさうさーのよさーさーさーさー

後白河信

らーあまよさーさーさーさーさー

後白河信

わーさーさーさーさーさーさー

後白河信

月々如人

後白河信

あーあさうさーさーさーさーさー

後白河信

あまのさーさーさーさーさー

後白河信

あまのさーさーさーさーさー

後白河信

あまのさーさーさーさーさー

後白河信

あまのさーさーさーさーさー

後白河信

あまのさーさーさーさーさー

後白河信

あまのさーさーさーさーさー

後白河信

秋芳龍海 前遣法師
りす来し月をぬ送るれ方あしよものかくしはるもあせ
吾籍よ余 前遣法師
お系うらふ秋うらふれをぬら向の川にさしとけり

桐さよふももんあふ里おみらや芳ののいよもん
いよもんのちやとほきや又秋芳れをれお系と
後拾尾 送道流芳 大長

梅に浪言 新 嘆えしつる光をかくしつらむして高のし白ふ梅下の世
添白流芳

如に浪月 家集 卯光のうらむしつらむをれと又月影さうれお水
藤原保房
藤葉浪雨 子音 けあすももんしつらむしつらむのうらむのうらむ
耕云

日 祢やまのけあすのうらむしつらむのうらむのうらむのうらむ
日 為ふたすしつらむのうらむのうらむのうらむのうらむ
日 深さたふももんあふ里おみらや芳ののいよもん
後拾尾

月 おしつらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ
月 九二 梅のうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ
後拾尾

御言浪浪 集六 後十 御言にうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ
若拙を長
浪言浪雨 玉 うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ
後拾尾

越 百十六 越 越 うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ
後拾尾

油鷹越拳 うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ
後拾尾

越山見た 一 芥末 白あつたの梅あつたをけりしつらむのうらむのうらむ
後拾尾

又白越園 二 又白越園 二 うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ
日

残月越園 越やしてえんをうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ
後拾尾

越 越 越 越 うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ
日

越 越 越 越 うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ
日

越 越 越 越 うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ
日

月夜
百七十五

あつちりれぬ心あやうく
あつちりれぬ心あやうく
あつちりれぬ心あやうく
あつちりれぬ心あやうく

恒如之
春海
恒如之

百七十七
期

七期
城女期
二皇期

藤原
藤原
藤原

百八十一
擇

いじりいんはあんなけぬ
まらうまらうまらう
まらうまらうまらう
まらうまらうまらう

藤原
藤原
藤原

百九十九
照

月照
月照
月照
月照

藤原
藤原
藤原
藤原

新
百七十七

移らるるあけの浪よそとありし移の月めしむ

後拾遺

月照水

新古今
十六

いと人せむらふたの宿もしきるれ月のもるにせめて

後拾遺

室の月あつてえにいと水にいつとせむらふるにせむらふ

梅吉宗
大后

月照山水

こゝろもあつた山下水よせむらふ月さるるさるるさるる

法眼長
大后

月照水

ぬたぬたふゆれおそくさるるさるるさるるさるるさるる

後拾遺

月清集
下

やまのそとにさるるさるるさるるさるるさるるさるる

大徳行宗

月照衣

源文者
集

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

新院御製

月照衣

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

新院御製

長秋集

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

皇太后宣
後成

月照寒草

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

道遠院
大后

月照寒草

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

新院御製

月照寒草

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

西行法師

月照寒草

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

後拾遺

山月照

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

後拾遺

百七

同

梅間君

家集

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

後拾遺

光る菅

家集

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

後拾遺

杜若草葉

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

後拾遺

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

後拾遺

松石橋

家集

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

後拾遺

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

後拾遺

雲石花

家集

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

後拾遺

雨石花

家集

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

後拾遺

竹石花

家集

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

後拾遺

松石花

家集

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

後拾遺

屯萩

^{百五} 憐 ふうふう 恨らぬ萩の花とよのあはれしよ 後拾遺

憐庭

おのゝたにふりやうらやと花の庭ひめよりあらん
うらやうらあふりうらやのせなふちうらやのまれば
なるじつよりいあひい思ふもい思の袖のうらや
ゆふゆくふりうらやの袖とよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん 後拾遺

憐月

^{百六} 荒

あふりうらやとよのあはれりやせん
わー吹ぬらうらやのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん

荒砌離麦

あふりうらやとよのあはれりやせん
わー吹ぬらうらやのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん

荒屋ま虫

あふりうらやとよのあはれりやせん
わー吹ぬらうらやのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん

荒屋月

あふりうらやとよのあはれりやせん
わー吹ぬらうらやのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん

荒庭月

あふりうらやとよのあはれりやせん
わー吹ぬらうらやのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん

^{百七} 當

梅庭富庭

あふりうらやとよのあはれりやせん
わー吹ぬらうらやのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん

^{百八} 遊

新遊

あふりうらやとよのあはれりやせん
わー吹ぬらうらやのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん
ふけふりうらやとよのあはれりやせん

^{七言} 白州の神のまにらわしては目とくくすせつらるる人

後製

花宴 ^{八言} 集の雲がたをのりては物言さうもく二葉なるの松

後製

いとけの女はまをいへてはまのすまのちのれはあは

後製

宴待待晚 ^{九言} 集の雲がたをのりては物言さうもく二葉なるの松

後製

五秋の神 ^{七言} 集の雲がたをのりては物言さうもく二葉なるの松

後製

さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

月

餘寒

一 ^{新古} 宜は松すもをいへてはあはれもあはれもあはれ

後製

一 ^玉 さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

一 ^丸 ああはれはあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

後製

月 さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

朝餘寒

さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

雪中餘寒

さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

餘寒

さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

餘寒水

さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

餘寒水

さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

二月餘寒

さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

山餘寒

さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

深溪餘寒

さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

さうりやがやあはれふりてはあはれもあはれもあはれ

後製

射松市於

ゆきせある尾よお松うつらうて新代もそねかこゝろあ

道徳宮宮史
大辰

十日 新和 採七 新和 採七

休通後物屋

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

官天板宮史
後成

射松市於

うつらうて新代もそねかこゝろあ

道徳宮宮史
大辰

射松市於

うつらうて新代もそねかこゝろあ

道徳宮宮史
大辰

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

射松市於

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

うつらうて新代もそねかこゝろあ

採七

夕夕の文にたきう新枕前とくーのひびとせせせ

後拾遺

夕夕の文にたきう新枕前とくーのひびとせせせ

道遠院

夕夕の文にたきう新枕前とくーのひびとせせせ

梅屋流茶右

夕夕の文にたきう新枕前とくーのひびとせせせ

春海院

夕夕の文にたきう新枕前とくーのひびとせせせ

後拾遺

夕夕の文にたきう新枕前とくーのひびとせせせ

後拾遺

夕夕の文にたきう新枕前とくーのひびとせせせ

後拾遺

夕夕の文にたきう新枕前とくーのひびとせせせ

後拾遺

夕夕の文にたきう新枕前とくーのひびとせせせ

後拾遺

夕夕の文にたきう新枕前とくーのひびとせせせ

後拾遺

夕夕の文にたきう新枕前とくーのひびとせせせ

後拾遺

秋の露玉解 夕夕の文にたきう新枕前とくーのひびとせせせ

後拾遺

遇友三友 新勅
後書逢者

集

貞一
集

夕夕の文にたきう新枕前とくーのひびとせせせ

後拾遺

天衣夜宵

新後
古三
百五十五

身うんあわらしてはるが何もの世もさるぬる月め見

百五十五
後成

糸系曝淨

高指いたちてしるてぬまて見ぬ淨の夕夜城らん

後成言

月よまのいさよのくさくさ此面氣よあつてぬめいさの

後成推經

百五十六
避

避暑

永正
九二

せら入るまの下流き山水火袖よあいにあはけ

道遠院

村泉避暑

白河
七

もたむすふ泉の水は涼しきなまよてや寝るらん

後成言

泉避暑

集
七

せら入るまの涼しき水はあてや寝るらん

紅河作

十有

涼しき水はあてや寝るらん

生良寺

泉避暑

後後
撰四

貴のむと若くは清水を流か下もさるもあまんらん

梅香使公通

百五十七
礙

庭樹礙日

京集

これ月の照目といふて家畜のむとさる涼しき

後成言

乾雲礙舟日

京集

あまの舟のあまの舟のあまの舟のあまの舟のあまの舟の

後成言

百五十八
妨

梅香妨路

京集

梅のこれ風ころの音とてしるぬらうのこころは

後成言

新樹妨月

十有

あはに月はあまの舟のあまの舟のあまの舟のあまの舟の

生良寺

梅香妨夏月

百五十九
呼

あはに月はあまの舟のあまの舟のあまの舟のあまの舟の

日

曉後呼使

あはに月はあまの舟のあまの舟のあまの舟のあまの舟の

後成言

後呼山使

古
十九

あはに月はあまの舟のあまの舟のあまの舟のあまの舟の

九河内

後呼山使

あはに月はあまの舟のあまの舟のあまの舟のあまの舟の

後成言

後呼山使

あはに月はあまの舟のあまの舟のあまの舟のあまの舟の

後成言

後呼山使

あはに月はあまの舟のあまの舟のあまの舟のあまの舟の

後成言

後呼山使

あはに月はあまの舟のあまの舟のあまの舟のあまの舟の

後成言

又つてやまはたふらふと暮らして様うも若れを傳へる

百四十五

交路柳繁

枚うろ寸柳うたあもさうしてなうにさるまはうい河

源流交通

いりやうしめあはつるもるねたりもる

河道せに笑ふらうもさうしてさり袖のなほあけさ

源流交通

何れもさうしてせん若うしなもたもさうして

卯辰交路

卯辰のさうしてさうしてさうしてさうして

盟友交水

及くは下り水いさうしてさうしてさうして

女色交路

女色交路のさうしてさうしてさうして

残菊交路

残菊交路のさうしてさうしてさうして

家集あーのさうしてさうしてさうして

金沢伝説

一糸

若菜白衣

行軍

秋観

二重及障

新流切

源仲正

大信正

皇太后

後成

従三位

百四十六

わたるさうしてさうしてさうして

及らんさうしてさうしてさうして

河水流

河水流のさうしてさうしてさうして

さうしてさうしてさうしてさうして

わささうしてさうしてさうして

さうしてさうしてさうしてさうして

さうしてさうしてさうしてさうして

さうしてさうしてさうしてさうして

さうしてさうしてさうしてさうして

後松金

後松金

後松金

後松金

後松金

後松金

後松金

後松金

後松金

水清池

心まじりてしるすも一交會や大川水の清きまじり
らまじりてしるすも一交會や大川水の清きまじり
庭のまじりてしるすも一交會や大川水の清きまじり

後拾遺

道遠流

後拾遺

後拾遺

雲雀清

雲雀の清きまじりてしるすも一交會や大川水の清きまじり
雲雀の清きまじりてしるすも一交會や大川水の清きまじり
雲雀の清きまじりてしるすも一交會や大川水の清きまじり

後拾遺

道遠流

後拾遺

清音

玉

清音の清きまじりてしるすも一交會や大川水の清きまじり
清音の清きまじりてしるすも一交會や大川水の清きまじり
清音の清きまじりてしるすも一交會や大川水の清きまじり

為春

後拾遺

後拾遺

後拾遺

山路抄

下

百四十三

新後

山路抄の清きまじりてしるすも一交會や大川水の清きまじり
山路抄の清きまじりてしるすも一交會や大川水の清きまじり
山路抄の清きまじりてしるすも一交會や大川水の清きまじり

後拾遺

後拾遺

月

五日 心ゆくつりてわが山嶺よ林のいろとさすの秋多
 十日 かつらもやをせはづい一秋の雲はたりのなつ又昔
 五日 族あつちをせはづい一秋の雲はたりのなつ又昔
 五日 草花もよをせはづい一秋の雲はたりのなつ又昔
 後醍醐天皇
 行路如
 五日 族あつちをせはづい一秋の雲はたりのなつ又昔
 五日 草花もよをせはづい一秋の雲はたりのなつ又昔
 後醍醐天皇

五月 心ゆくつりてわが山嶺よ林のいろとさすの秋多
 十月 かつらもやをせはづい一秋の雲はたりのなつ又昔
 五月 族あつちをせはづい一秋の雲はたりのなつ又昔
 五月 草花もよをせはづい一秋の雲はたりのなつ又昔
 後醍醐天皇

百四十四廻

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

藤原院 山吹のほろいりてさうりていひおすくも月とぬ池の
 見光

煉た廻水

ももてはさすか橋あかき大いんた廻り待たし
河津ぢうのまをさき橋廻りしんあつとさるあは
池あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと

後橋を記
後橋を記

後橋を記

後橋を記

後橋を記

後橋を記

後橋を記

後橋を記

同

翠松院家

紅葉流塔

鳥廻塔

あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと

後橋を記

後橋を記

後橋を記

後橋を記

後橋を記

後橋を記

後橋を記

後橋を記

落葉流村

村廻山

あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと
あつとさるあつとさるあつとさるあつとさるあつと

後橋を記

百四十五 古し

荷萱乱風

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

耕雲

月 里人、此の、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

後松本

日 この、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

後松本

わりの、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

前大徳寺法

荷萱乱風

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

王宮文筆

荷萱乱風

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

大中寺柳江

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

後松本

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

日

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

日

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

後松本

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

後松本

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

日

百四十六 可 昏

山家落梅

此の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

後松本

山家落梅

此の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

慶基法師

山家落梅

此の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

大徳寺法

山家落梅

此の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

藤倉経街

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

後松本

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

日

山家落梅

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

後松本

山家落梅

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

日

山家落梅

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

後松本

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

日

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

後松本

其の風は、此の我を、吹く風の、なれり、家乃、風くそ

日

玉 在るにぞもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

七言 新 秋 秋風や雨のまよふらん着ては秋のゆくゆく

三つりつ井のるるれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

秋の風 新 秋 秋風や雨のまよふらん着ては秋のゆくゆく

秋の風 新 秋 秋風や雨のまよふらん着ては秋のゆくゆく

秋の風 新 秋 秋風や雨のまよふらん着ては秋のゆくゆく

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

いづれもあつらんくもれはくすれぬものしりちあは

藤原家

藤原家

藤原家

柳随風

新抄

尺もさせいし海の向ふより吹て風よふくも柳の

柳の傳

柳随風

一金

風うけ柳のいと花いかりにまいたつてさうまうれ

白河院流製

随風

後撰

吹風といふはくそしあめうらぐあめうらぐあめうらぐ

後撰

随風

菅原

風やうたむやうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

後撰

随風

一金

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

後撰

随風

一金

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

後撰

随風

一金

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

後撰

随風

一金

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

後撰

随風

一金

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

後撰

随風

一金

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

後撰

随風

一金

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

後撰

藤の随風

藤の随風はさかしく吹て風よふくも柳の

藤の傳

新抄

吹て風よふくも柳の

藤の傳

古三

吹て風よふくも柳の

藤の傳

女

吹て風よふくも柳の

藤の傳

女

吹て風よふくも柳の

藤の傳

女

吹て風よふくも柳の

藤の傳

女

吹て風よふくも柳の

藤の傳

女

吹て風よふくも柳の

藤の傳

女

吹て風よふくも柳の

藤の傳

女

吹て風よふくも柳の

藤の傳

女

吹て風よふくも柳の

藤の傳

女

吹て風よふくも柳の

藤の傳

女

吹て風よふくも柳の

藤の傳

女

吹て風よふくも柳の

藤の傳

女

吹て風よふくも柳の

藤の傳

女

吹て風よふくも柳の

藤の傳

新古今 鶉鳴くわのち世のまらと原きおれあにしとけりるん

中平新古今 集 しまての通りふじすいんあたまするわかれ後身

いとらむあかりてうな草れまけこのわ世にふのこゆる

新古今 新古今 林のせれあんきとらと並あまねきてや人の守りらん

新古今 伴四 かり衣もまのむよりあはれこらうらたにをばらり

新古今 玉 庭草あはれか へこしてやとあまきり庭をせとあしうらするれを世か

新古今 後拾遺 庭草あはれか 庭の向よりけりまをいたるよあせて人のまにとけあは

明月香 五 荒庭あはれ 井集 下の 一のむれんせんりてあはれた庭のけり

文安 四 虫声送 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下 文安 下

晚庭賦目十有

夕ほく日すやさのうすあなれとわつぬまはるれ

其良又作是

月賦八

白のあましくも光しくもはらすあぬまのあつ月

其良又作是

花名賦

山橋枝よこまはる月氣とたつもつらつらうれ

平江章

光のいろと月のうつくしはるせりてやまやまはあぬ

其良又作是

萩賦水

まよき原下葉いつたてくはれしむのほとよ

後拾遺反切

そたのえれ下りあそめつらき折れおもとおやうらん

後拾遺反切

嘆一ちりめとむもつらきあつ火のむねもあはれ

後拾遺反切

うつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

春風賦

今うらやほのむ川流るてあつらばれなるゆつれ

其良又作是

学海賦月

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

其良又作是

菊賦月

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

其良又作是

とせ月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

長調新

九年にいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

萩のあにむあそくせらるめとていそいでつらつらう

後拾遺反切

ねれ菊とつらつらうつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

流のあにむあそくせらるめとていそいでつらつらう

後拾遺反切

日氣をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

夕日氣をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

月をいそいでつらつらうつらうつらうつらう

後拾遺反切

松枝映松

十 ちんちん少うつゝこの又入りりま河ねももまゑ 氣流へき

後醍醐天皇
太政大臣

松尾映池

五三 氣の向とてまの松もれ枝に八母とくんははるる辰

後醍醐天皇

日 沈みの浪もまろく松もまろくもいもまのまのすも

後醍醐天皇
右大臣

日 若代のけとつむつ池あよりつとまろくもろくもろくも

松尾良右
大左

日 松えにまをさうつてまをせまろくもろくもろくも

松尾重頼

又陽映嶋

まろくもろくもろくもろくもろくもろくもろくも

後醍醐天皇

又附日のこもぬまろくもろくもろくもろくもろくも

日

立浪とまろくもろくもろくもろくもろくもろくも

松尾重頼

又ついですまろくもろくもろくもろくもろくもろくも

道遠流芳
大下

さういゝ又日のこもぬまろくもろくもろくもろくも

松尾重頼

浪もまろくもろくもろくもろくもろくもろくも

春風映池

かろくもろくもろくもろくもろくもろくもろくも

松尾重頼

松尾重頼

松尾重頼

雲間露月 新古今 たる侍やみらふのしほのさきさきなる月 地内流記

梅衣響風 新古今 山ゆのびく依もやこまくもいそがひては風吹 後酒造家

秋衣閑 新古今 ぬるた衣の甘くもいそがひては風吹 藤原経衡

ぬる衣 新古今 白衣の甘くもいそがひては風吹 為長

曳高蒲 新古今 ぬく宿のちやめれ草のしほのさきさきなる月 後花園院

梅衣金 新古今 かりのきれ梅のまの梅のくれ吹くる風 久我兼光

梅衣金 新古今 かりのきれ梅のまの梅のくれ吹くる風 久我兼光

梅衣金 新古今 かりのきれ梅のまの梅のくれ吹くる風 久我兼光

梅衣金 新古今 かりのきれ梅のまの梅のくれ吹くる風 久我兼光

梅衣金 新古今 かりのきれ梅のまの梅のくれ吹くる風 久我兼光

梅衣金 新古今 かりのきれ梅のまの梅のくれ吹くる風 久我兼光

梅衣金 新古今 かりのきれ梅のまの梅のくれ吹くる風 久我兼光

梅衣金 新古今 かりのきれ梅のまの梅のくれ吹くる風 久我兼光

梅衣金 新古今 かりのきれ梅のまの梅のくれ吹くる風 久我兼光

梅衣金 新古今 かりのきれ梅のまの梅のくれ吹くる風 久我兼光

久待郭公

松玉

待まいて月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

七月愛

松玉

待まいて月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

松玉

待まいて月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

松玉

待まいて月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

松玉

待まいて月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

松玉

待まいて月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

松玉

待まいて月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

松玉

待まいて月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

松玉

待まいて月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

松玉

待まいて月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

松玉

待まいて月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

城女夢久

新秋

七夕あまの月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

月色秋久

新秋

七夕あまの月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

池月久明

新秋

七夕あまの月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

新秋

七夕あまの月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

新秋

七夕あまの月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

新秋

七夕あまの月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

新秋

七夕あまの月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

新秋

七夕あまの月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

新秋

七夕あまの月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

新秋

七夕あまの月夜をにらみけりてとて山深きりありん人

兼大信定法

菊に露久

ゆせまてうゝねなわらうきとんわぬよれ菊の盃

華山院の製

水石秋久

ゆの宿にはぬらむとむと見ゆりてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

庭松久

庭の面にふもも松の葉なりいづは露のみに深らん

後西の推親

庭松久

庭の松の葉なりいづは露のみに深らん

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

松石久

火の心も井の心もあはれはの心とてはれ秋の盃

後西の推親

春言歌消

あさきうらみも草やつらん其の目れうらに照す中何言

春言雅有

春歌言

千青梅くしりめまうしほ言ぬもまもとも風やつまこころん

梅歌雅有

さすはのるる月敷もまればあまにうらみくても

道遠流第内

夕言歌

夕言みりあけもまうらにほあまうら多しほの氣れん

夕言雅有

千 風うらななきまうらてあおるふくくも

夕言雅有

新 秋歌

大井河村山なりぬんてしうひのりかをくも

新秋歌

百首 夕言みりあけもまうらにほあまうら多しほの氣れん

夕言雅有

いろりふあまの麻の青うらや小萩の上のねもあかん

夕言雅有

月歌

萩の青にうらやまうらけの斬らうさうた月や食にぬ

月歌

秋入月

四 夕言 夕言のそまうらにうらあけの屋入くもぬる月のも

太上天皇

夕言 夕言のそまうらにうらあけの屋入くもぬる月のも

夕言白

夕言 夕言のそまうらにうらあけの屋入くもぬる月のも

夕言雅有

夕言 夕言のそまうらにうらあけの屋入くもぬる月のも

夕言雅有

夕言 夕言のそまうらにうらあけの屋入くもぬる月のも

夕言雅有

時草歌

夕言 夕言のそまうらにうらあけの屋入くもぬる月のも

夕言雅有

夕言 夕言のそまうらにうらあけの屋入くもぬる月のも

夕言雅有

夕言 夕言のそまうらにうらあけの屋入くもぬる月のも

夕言雅有

夕言 夕言のそまうらにうらあけの屋入くもぬる月のも

夕言雅有

虫歌

夕言 夕言のそまうらにうらあけの屋入くもぬる月のも

夕言雅有

新 秋歌

夕言 夕言のそまうらにうらあけの屋入くもぬる月のも

新秋歌

年歌言

五月六日所る道とて年めいしらるるもくもみ州やいりけ

後拾遺和歌

あついであついであついであついであついであついであついで

北西と唯記

いづこかあついであついであついであついであついであついで

道遠流和歌

草卷

つりてつりてつりてつりてつりてつりてつりてつりてつりて

軽法師

書地歌

あついであついであついであついであついであついであついで

其安文和歌

空灯歌

あついであついであついであついであついであついであついで

道遠流和歌

あついであついであついであついであついであついであついで

後拾遺和歌

花将歌

あついであついであついであついであついであついであついで

春派和歌

秋将言

あついであついであついであついであついであついであついで

其安文和歌

百廿八

池水長澄

あついであついであついであついであついであついであついで

道遠流和歌

新巻

あついであついであついであついであついであついであついで

後拾遺和歌

集

あついであついであついであついであついであついであついで

道遠流和歌

あついであついであついであついであついであついであついで

後拾遺和歌

河火沈

あついであついであついであついであついであついであついで

藤原和歌

新巻

あついであついであついであついであついであついであついで

其安文和歌

河氷沈

あついであついであついであついであついであついであついで

後拾遺和歌

集

あついであついであついであついであついであついであついで

後拾遺和歌

五

あついであついであついであついであついであついであついで

若狭和歌

五

あついであついであついであついであついであついであついで

法下和歌

透

あついであついであついであついであついであついであついで

法下和歌

夕月透行

あついであついであついであついであついであついであついで

其安文和歌

あついであついであついであついであついであついであついで

後拾遺和歌

あついであついであついであついであついであついであついで

後拾遺和歌

七五

あつこい目のまろし〜まは雲の行月よれをゆくは

遠道院

雲火透巻一七五

形ち〜ち〜雲のまはたけよまにむしあすはけり

十谷正徳

あつね月よりの〜あつねの雲の〜あつねの〜

後拾遺房

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

七五

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

七五

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

七五

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

紅葉透芳

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

七五

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

紅葉透松

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

七五

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

七五

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

七五

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

紅葉透

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

紅葉透

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

紅葉透

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

紅葉透

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

紅葉透

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

紅葉透

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

紅葉透

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

紅葉透

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

紅葉透

あつねの〜あつねの〜あつねの〜あつねの〜

日

柳蔭の涼しき夕べにちかぢきとむねの林ありけりりらん 日

あはれよきもせむれと鳥のこゑあやまの月よけや恨ん 以迄流下

未きくもくもくさき山風も月よけとあはれあはれ 林蔭下

うたえもももかかきりけりあやまの夕暮れ声 林蔭下

をみよきあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ 林蔭下

り林やあはれ月よけとあはれとあはれとあはれ 林蔭下

何と 静寂 さうさうと海に柳のこゑあはれとあはれとあはれ 六葉草

村のあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ 以迄流下

何と 白鳥 鳴りてあはれとあはれとあはれとあはれ 伊賀道

と風 明日香 吹つたあはれとあはれとあはれとあはれ 春風

何と 松 吹つたあはれとあはれとあはれとあはれ 春風

以迄流下
林蔭下
林蔭下
林蔭下
六葉草
以迄流下
伊賀道
春風
春風

林

林蔭 松 吹つたあはれとあはれとあはれとあはれ 以迄流下

林蔭 松 吹つたあはれとあはれとあはれとあはれ 以迄流下

林蔭 松 吹つたあはれとあはれとあはれとあはれ 以迄流下

林蔭 松 吹つたあはれとあはれとあはれとあはれ 以迄流下

林蔭 松 吹つたあはれとあはれとあはれとあはれ 以迄流下

林蔭 松 吹つたあはれとあはれとあはれとあはれ 以迄流下

林蔭 松 吹つたあはれとあはれとあはれとあはれ 以迄流下

林蔭 松 吹つたあはれとあはれとあはれとあはれ 以迄流下

林蔭 松 吹つたあはれとあはれとあはれとあはれ 以迄流下

以迄流下
林蔭下
林蔭下
林蔭下
六葉草
以迄流下
伊賀道
春風
春風

林又及

^五上 ちかやりのあまの梢みたくてなみちやとみせせら

後住法師

林以輝

^九正 せみし声はやうやの下糸糸夕のいろと

後住法師

林の蟬声

^二天 二 九 せみのこゝろにけりくす蝉の羽のやうにやとあし鳴らん

後住法師

一葉散林

^日 一 及 子 息 ちかやりのあまの梢みたくてなみちやとみせせら

俊成

一葉散林

ひらせんあしれ梢をよみくさ葉もあつたをよみくさ

藤原光永

一葉散林

しんせいのの里れとくさくさの梢

後住法師

一葉散林

一葉のこゝろにけりくす蝉の羽のやうにやとあし鳴らん

藤原経衡

一葉散林

お達せやまのこゝろにけりくす蝉の羽のやうにやとあし鳴らん

良道法師

林月

枯くくみつく枝よあやうくに一葉のこゝろにけりくす

藤原光孝

月海林間

多にさよふ月ゆきやいさなうたあやうきとせんくつ

後住法師

林下時

しんせいのの里れとくさくさの梢

後住法師

林下時

お達せやまのこゝろにけりくす蝉の羽のやうにやとあし鳴らん

良道法師

林下時

しんせいのの里れとくさくさの梢

後住法師

林下時

お達せやまのこゝろにけりくす蝉の羽のやうにやとあし鳴らん

良道法師

林下時

しんせいのの里れとくさくさの梢

後住法師

林下時

お達せやまのこゝろにけりくす蝉の羽のやうにやとあし鳴らん

良道法師

林下時

しんせいのの里れとくさくさの梢

後住法師

林下時

お達せやまのこゝろにけりくす蝉の羽のやうにやとあし鳴らん

良道法師

林下時

しんせいのの里れとくさくさの梢

後住法師

林下時

お達せやまのこゝろにけりくす蝉の羽のやうにやとあし鳴らん

良道法師

五枝樹 玉壽 下 ありあけもつらよの枝をりいづりも

仁信彦彦

着樹裏 月清 下 ありあけもつらよの枝をりいづりも

後拾余彦製

裏流樹 下 ありあけもつらよの枝をりいづりも

後拾余彦製

裏流樹 下 ありあけもつらよの枝をりいづりも

後拾余彦製

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

新流は製

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

太上天皇

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

九条前内侍

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

新樹風 松樹 ありあけもつらよの枝をりいづりも

皇太后

五月

草れ糸ゆきまの月影よらん
心大旨

花集のあまもあまのすもみ
十梅院茶阿

りゆりよまはけいふ
後拾遺歌

かきこころんかきり
道定院茶阿

三十一

人まはけいふ
後拾遺歌

あまれおたまむね
春寂院健

虫鳴叢

一高

おのけいふ
五右

叢中草

家集

むらむら
藤奈屋徳助

叢中草

五

むらむら
平益威

叢中草

五

むらむら
大中長休宣

寒叢

月

むらむら
後拾遺歌

寒叢

残

むらむら
後拾遺歌

衣

衣

文能

むらむら
道定院茶阿

衣

王

むらむら
後拾遺歌

梅落衣

百首

むらむら
道定院茶阿

衣

十首

むらむら
後拾遺歌

衣

全

むらむら
藤奈屋徳助

衣

全

むらむら
藤奈屋徳助

衣

全

むらむら
後拾遺歌

衣

新集

むらむら
十梅院茶阿

衣

全

むらむら
後拾遺歌

七夕衣 後唐景流并
 芳徽女衣 後唐景流
 月照衣 後唐景流并
 晓衣衣 後唐景流并

梅堂袖 百七
 梅袖袖 百七
 唐奴袖 百七

色 百十五

春色 後唐景流
 花色 後唐景流
 夏色 後唐景流
 秋色 後唐景流

冬色 雑色

冬色 雑色
凡 雪のふりやうらやうら
十六 雪のふりやうらやうら
十七 雪のふりやうらやうら
十八 雪のふりやうらやうら
十九 雪のふりやうらやうら
二十 雪のふりやうらやうら

百七十六 青

草色 上

草色 上
十七 草の生えやうらやうら
十八 草の生えやうらやうら
十九 草の生えやうらやうら
二十 草の生えやうらやうら
二十一 草の生えやうらやうら
二十二 草の生えやうらやうら

馬代蓋眉金 九 細長

馬代蓋眉金 九 細長
九 馬代の蓋眉金
十 馬代の蓋眉金
十一 馬代の蓋眉金
十二 馬代の蓋眉金
十三 馬代の蓋眉金
十四 馬代の蓋眉金

黄

黄
黄の生えやうらやうら
黄の生えやうらやうら
黄の生えやうらやうら
黄の生えやうらやうら
黄の生えやうらやうら
黄の生えやうらやうら

黄葉

黄葉
黄葉の生えやうらやうら
黄葉の生えやうらやうら
黄葉の生えやうらやうら
黄葉の生えやうらやうら
黄葉の生えやうらやうら
黄葉の生えやうらやうら

黄栌新柳 出蔵 二凡

黄栌新柳 出蔵 二凡
黄栌新柳の生えやうらやうら
黄栌新柳の生えやうらやうら
黄栌新柳の生えやうらやうら
黄栌新柳の生えやうらやうら
黄栌新柳の生えやうらやうら
黄栌新柳の生えやうらやうら

夏人 赤

赤

内あつる雲も日氣よきうしてぬきまをちりし寸葉のみし
枝曲を教國

紅梅

新枝 一
後葉 七二
香と花あつとくさき梅をいれせよさめめさかん
花山流は初春
枝曲を雅世

紅梅遅

さく梅ありよきとめきとくさかん梅のぬ
枝曲を雅世

雪の梅

五五いとしきさししてしなぬれもつりあつ梅のぬ
枝曲を雅世

鄰陽紅

九一山人のすもも思根よ咲つしよめはまを菊とん月
枝曲を雅世

林葉のぬ

五玉 内あつるいよめあせれ枝曲を
枝曲を雅世

葉のぬ

ゆりうにそれはゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
枝曲を雅世

白

秋五 負外 白雪は八重と花の山梅をたてつくは川うせ
枝曲を雅世

冬にぬきまをちりし寸葉のみし
枝曲を雅世

百七十九 白鳥

白梅

をくけて笑とあはれの梅やさきと葉をよもひのり
山にの雪れ梅のさきとあはれの梅の
雪うとて起てしつとあはれの梅のさきとあはれ

藤原実方

暁月白

黒

百十
黒

いとものんはうつらとてあはれを流してはなはれの雪うみ
鳥羽をれ噴やしの羽やしてしつとあはれの梅の
さくらねいりやめよとあはれの梅のさきとあはれの梅の

藤原実方

百十一
緑
翠碧

緑草

定例
百十一

いとものんはうつらとてあはれを流してはなはれの雪うみ
鳥羽をれ噴やしの羽やしてしつとあはれの梅の
さくらねいりやめよとあはれの梅のさきとあはれの梅の

為持

柳之た緑

いとものんはうつらとてあはれを流してはなはれの雪うみ
鳥羽をれ噴やしの羽やしてしつとあはれの梅の
さくらねいりやめよとあはれの梅のさきとあはれの梅の

藤原実方

柳系縁新

いとものんはうつらとてあはれを流してはなはれの雪うみ
鳥羽をれ噴やしの羽やしてしつとあはれの梅の
さくらねいりやめよとあはれの梅のさきとあはれの梅の

藤原実方

松久縁

いとものんはうつらとてあはれを流してはなはれの雪うみ
鳥羽をれ噴やしの羽やしてしつとあはれの梅の
さくらねいりやめよとあはれの梅のさきとあはれの梅の

藤原実方

松久縁

いとものんはうつらとてあはれを流してはなはれの雪うみ
鳥羽をれ噴やしの羽やしてしつとあはれの梅の
さくらねいりやめよとあはれの梅のさきとあはれの梅の

藤原実方

松久縁

いとものんはうつらとてあはれを流してはなはれの雪うみ
鳥羽をれ噴やしの羽やしてしつとあはれの梅の
さくらねいりやめよとあはれの梅のさきとあはれの梅の

藤原実方

同
 枝葉久保
 竹久保
 雨津行

夫の代はねやまのりともまのり
 うーのりともまのり
 下集
 五竹のまのり
 五のりともまのり

後藤屋の親
 後藤屋の親
 後藤屋の親
 後藤屋の親

筆藤

紫
 枝のたねをまのりともまのり
 枝のたねをまのりともまのり
 枝のたねをまのりともまのり
 枝のたねをまのりともまのり

後藤屋の親
 後藤屋の親
 後藤屋の親
 後藤屋の親

教字

霍公教字
 天地のまのりともまのり
 天地のまのりともまのり
 天地のまのりともまのり
 天地のまのりともまのり

左大臣
 左大臣
 左大臣
 左大臣

百全

郭公一声
 松風吉原
 松風吉原
 松風吉原
 松風吉原

後藤屋の親
 後藤屋の親
 後藤屋の親
 後藤屋の親

幼馬一声集

ついにとくばなとくく寸心さるる後すつ
鳴てまろく一声人よん心をすすめはれもほは

権四之権親

権西之政房

権一日采

あさりとくろの物ほとやあましく一日とて後方くれ

後拾遺大納言

むろろの朝夕ふれおとくにものあさくは月をくしれ

月

柔のちろろにいんねのみとくろのたのめおん

月

月ろろ内とまのじとらほし吹風よらせれ楊やんはれ物教

道達院下

紅葉二樹

五

いとろやとろちてみこもれまうれいすもやえとくろん

権西之権親

秋唯一日

あつめきいねんふあくろねありゆめろくくくろろ

藤原隆資

あつしよ流んろろろろろろろろろろろろろろろろ

権西之権親

くろろいんねんふあくろねありゆめろくくくろろ

春法院

一溪雲鳥

十五

雲鳥とくろろろろろろろろろろろろろろろろ

院下

百十五

あつめきいねんふあくろねありゆめろくくくろろ

教考

五捕二日

二十

あつめきいねんふあくろねありゆめろくくくろろ

二条院

二五

あつめきいねんふあくろねありゆめろくくくろろ

頼政

百十七

あつめきいねんふあくろねありゆめろくくくろろ

権西院

百十七

あつめきいねんふあくろねありゆめろくくくろろ

東世

百六十六

こまじりてはらぬものもたれんいかにあつてのからる

百六十九

いづるもはらぬものもたれんいかにあつてのからる

百七十

翠のまねのひまもつとくも二のまねとくもつとくも

百七十一

いづるもはらぬものもたれんいかにあつてのからる

八守操

いづるもはらぬものもたれんいかにあつてのからる

百七十二

月を月とあはれいかにあつてのからる

百七十三

いづるもはらぬものもたれんいかにあつてのからる

松た十廻

百七十四

いづるもはらぬものもたれんいかにあつてのからる

祝与人

いづるもはらぬものもたれんいかにあつてのからる

西

いづるもはらぬものもたれんいかにあつてのからる

西

いづるもはらぬものもたれんいかにあつてのからる

西

いづるもはらぬものもたれんいかにあつてのからる

西

いづるもはらぬものもたれんいかにあつてのからる

情不駐

日 何事はなほ... 情不駐 後拾遺集

あふらふらん... 情不駐 日

あふらふらん... 情不駐 後拾遺集

あふらふらん... 情不駐 後拾遺集

帯不駐

あふらふらん... 帯不駐 後拾遺集

あふらふらん... 帯不駐 中納言

あふらふらん... 帯不駐 後拾遺集

あふらふらん... 帯不駐 後拾遺集

あふらふらん... 帯不駐 後拾遺集

あふらふらん... 帯不駐 後拾遺集

秋不駐

あふらふらん... 秋不駐 後拾遺集

あふらふらん... 秋不駐 後拾遺集

あふらふらん... 秋不駐 後拾遺集

あふらふらん... 秋不駐 後拾遺集

不解

水不解

あふらふらん... 水不解 後拾遺集

あふらふらん... 水不解 後拾遺集

不念

郭不念

あふらふらん... 郭不念 後拾遺集

不敬

口不敬

あふらふらん... 不敬 後拾遺集

不分 三十四

耳風不分 耳風 耳風の音も打もいふまゝに成る風

後世に傳へたる
大正六年

不并 三十五

緑竹并秋 後十八 竹の葉も秋の風も

大正六年

不忘 三十六

花未忘 二 花の香も心に残る

漆仲心

像月不忘秋 三 月の光も秋の風も

漆後松竹

未忘者意 四 心に残るもの

漆竹松竹

不帰 三十七

不語 三十八

落花不語 三十九

空詩樹

落花も言はず

公彦の言

不眠 四十

橋名不眠 四十一

橋名も言はず

道達流

不流 四十二

水氷不流 四十三

水氷も言はず

正家

不失 四十四

松葉不失 四十五

松葉の香も言はず

道達流
春風伝

不残 二百十二

林葉不残

松葉おてのなつ月もまのわいも後とよまきりけり

新流は家

不起 二百十一

水波浪不起

船中鳥もよき守めよらうねとよすらん習子のうらみ

六条宮

不待 二百十

槿不待夕

ごころかごころもなるし船中の夕氣もぬくれのまじり

東宮文政寺

不異 二百十五

梅は不異月

まよひの月もやうもあはをらうらや園もなうらんとすらん

大江流言

不擇 二百十六

花を擇處

いつともたぬ傷れをうまひぬいこぬらまはるたちれ

修文文政寺

月不擇處 二百十五

久らねたかきうねの月いつ抱の里もゆきもくらくれ

後徳寺文政

葉のちかむれうてあてを晴てをれんはとあつ月が

後徳寺文政

かといのせいのあはよまもくも光をうて月やまむん

後徳寺文政

かつこんよ月もを井の九まも八まむくもをさそや

道徳院文政

いとむ月のまもすやこく高傳もあさうの巻もむの仰せ

後徳寺文政

日おうよ春の草葉にほまれやあかりあもそそて月乳

宗山

日萩のえんをたやまらるあまの月乳かき

後徳寺文政

日流里れんもあはぬ月もあはしそそてこじん我伝長くハ

後徳寺文政

ていつのすかきもる月もかそそたぬねんのもまもく

後徳寺文政

不改 二百十七

秋夜不

我らとてさしとるる尾よのぬらふもかえん

藤原家持

なれはあまらるる花もさしとるる尾よのぬらふもかえん

藤原経衡

いづれもささるる花もさしとるる尾よのぬらふもかえん

藤原国房

約するてのよき出するしとるる尾よのぬらふもかえん

藤原義孝

阿都のゆきとらと月とささるる尾よのぬらふもかえん

後醍醐

月あつすのこなほささるる尾よのぬらふもかえん

廣徳朝臣

一 孟まよへのわららるる原は虫のまよきとささるる尾よのぬらふもかえん

大徳朝臣

一 文くよあつすのこなほささるる尾よのぬらふもかえん

大徳朝臣

かひのあはれをささるる尾よのぬらふもかえん

後醍醐

不言

懐旧遊一

後醍醐

かよとらと月とささるる尾よのぬらふもかえん

後醍醐

桃花不言

十首 咲飛のたぬい...

...

未出

未出月

後醍醐

大元れまよのこなほささるる尾よのぬらふもかえん

太上天皇

後醍醐

侍りたれまよのこなほささるる尾よのぬらふもかえん

式部

後醍醐

里人れまよのこなほささるる尾よのぬらふもかえん

後醍醐

月清

なれまよのこなほささるる尾よのぬらふもかえん

後醍醐

下

林の月とささるる尾よのぬらふもかえん

後醍醐

建徳

寺にまよのこなほささるる尾よのぬらふもかえん

後醍醐

十首

山のとささるる尾よのぬらふもかえん

忠臣

十首

あつすのこなほささるる尾よのぬらふもかえん

忠臣

為未出極

新

風吹くあつすのこなほささるる尾よのぬらふもかえん

忠臣

三首
未遍

半蔵未遍

一 三 むしつたかひさす女と煙めてこころくよせしめい

光未遍

嘆くも猶も海に宿りてをたふはくくちやん

草庵集二 笑ふもく宿りてをたふはくくちやん

山花未遍

月清集上 山花未遍

山けを竹湯といぬ梅をいりいぬるを恨み

尺五せりあつとくりに笑ふもをたふはくくちやん

矢のきれらるる花のきれらるる梅やちり白く

聖廟法末 山梅のらるる花のきれらるる梅やちり白く

落た未遍

玉吟上 あくせんをたふはくくちやん

原集 風風のいたくくちやん

おのつとくちやん

那公未遍 二 松月 月

筆友七首 家ものしほくちやん

新後七首 ろしてま

七 日 梅

三首
未了

未聞郭公

なまらとららるる梅

三首
未開

梅未開

星のきれらるる梅

未開花

凡 後撰 梅

花未開

さうぬらんを

未發花

火正九二 梅

梅未開

よとくちやん

喜社 今やとて 漢とあり なるや ぬるの 人の けり こと しの せは あり
法 未

二百五十五
家

家、納涼 月清集下 ちよれまうたう ころりやせし 又い里を ちよせし あり

家集 ちよれまうたう ころりやせし 又い里を ちよせし あり
後 徳政 徳政
甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

家、友枝 於玉 一つまう わらわの 井を なる ころりやせし 又い里を ちよせし あり

家集 一つまう わらわの 井を なる ころりやせし 又い里を ちよせし あり
後 徳政 徳政
甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

家、蔵言 孫林 五 宿と なる ころりやせし 又い里を ちよせし あり

家集 宿と なる ころりやせし 又い里を ちよせし あり
後 徳政 徳政
甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

家、深板 十 月 ころりやせし 又い里を ちよせし あり

家集 月 ころりやせし 又い里を ちよせし あり
後 徳政 徳政
甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

二百五十六
村

村、煙細

山は ちよれまうたう ころりやせし 又い里を ちよせし あり

家集 山は ちよれまうたう ころりやせし 又い里を ちよせし あり
後 徳政 徳政
甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

あし ころりやせし 又い里を ちよせし あり

家集 あし ころりやせし 又い里を ちよせし あり
後 徳政 徳政
甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

あし ころりやせし 又い里を ちよせし あり

家集 あし ころりやせし 又い里を ちよせし あり
後 徳政 徳政
甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

二百五十七
處

處、三三

あし ころりやせし 又い里を ちよせし あり

家集 あし ころりやせし 又い里を ちよせし あり
後 徳政 徳政
甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

あし ころりやせし 又い里を ちよせし あり

家集 あし ころりやせし 又い里を ちよせし あり
後 徳政 徳政
甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

若菜処

天明十三年
十一月十八日

と人やんとわけてとわの香じつたの香ふよつむん

秋朝流石居

知る処

一

まらぬものなほよそなれていこむ甲のまらぬ

白河屋流製

あつた山をくわつたもあつたもくわつたもあつたも

六条右大臣

横濱四方はまらぬもくわつたもあつたもくわつたも

横濱屋流製

一新

まらぬもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

右大臣長官

二

約つたもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

後奈良長官

横濱四方はまらぬもくわつたもあつたもくわつたも

横濱屋流製

横濱四方はまらぬもくわつたもあつたもくわつたも

横濱屋流製

あつたもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

後奈良長官

一

山横はまらぬもくわつたもあつたもくわつたも

久松大臣

あつたもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

後奈良長官

あつたもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

後奈良長官

た処

四

いづれもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

横濱屋流製

落た処

千

一もたせめてもくわつたもあつたもくわつたも

長官大臣

卯を卯

あつたもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

横濱屋流製

処を照射

家集

いづれもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

横濱屋流製

横濱屋流製

十首

あつたもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

長官大臣

寒草処

あつたもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

後奈良長官

あつたもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

後奈良長官

あつたもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

後奈良長官

あつたもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

後奈良長官

あつたもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

後奈良長官

あつたもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

後奈良長官

あつたもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

後奈良長官

あつたもくわつたもあつたもくわつたもあつたも

後奈良長官

寒き処

風定し霧はくもる若れ葉の多し〜月ひかり影散る〜
兼隆吉郎道

二百八

年見花

折く月つらき花のさきもよもいとおもはれ〜
公家

二百九

日鷹梅

限りもなき花のさきもよもいとおもはれ〜
隆祐

二百十

あゝ照射

あゝ照射の光もさかぬ〜
前信吉郎

あゝ見月

あゝ見月の光もさかぬ〜
後信吉郎

二百十一

懐時

懐時の光もさかぬ〜
時

二百十二

王人歌

王人歌の光もさかぬ〜
後信吉郎

二百十三

あゝ見月の光もさかぬ〜
後信吉郎

二百十四

友草色

友草色の光もさかぬ〜
後信吉郎

草の色

草のやぶれは吹く風のいろとほの白ひまういってらん

後拾遺集

わいさりと草のやぶれももたつてつらなればあめをば

道徳集

菊の色

菊のやぶれは吹く風のいろとほの白ひまういってらん

平家集

菊の色

菊のやぶれは吹く風のいろとほの白ひまういってらん

女房

元正

菊のやぶれは吹く風のいろとほの白ひまういってらん

日

紅葉色

紅葉のやぶれは吹く風のいろとほの白ひまういってらん

後拾遺集

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

日

元正

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

道徳集

元正

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

後拾遺集

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

後拾遺集

禁中

集

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

後拾遺集

月清

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

道徳集

集

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

後拾遺集

日

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

日

右

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

平家集

日

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

日

日

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

日

日

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

日

日

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

日

元正

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

道徳集

元正

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

後拾遺集

あつれはあめをばとほの白ひまういってらん

後拾遺集

おぼすみづしものくれ枝さし人目教りゆくはあ入り雲 梅屋彦太郎

まきのつづの月教もいんらんらなまのりしゆくはくれ 日

まのよのくれそくれぬるをれおのつむかたをれ 日

まのよのいんたをれおの百女の道すつ道すれおのいん 日

月教もいんたをれまのりたをれもたをれ 日

百女やいんたをれ梅くれむ 春儀雅有

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

百女やおの梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

林中神樂 於王

まきのつづの月教もいんらんらなまのりしゆくはくれ 日

まのよのくれそくれぬるをれおのつむかたをれ 日

まのよのいんたをれおの百女の道すつ道すれおのいん 日

月教もいんたをれまのりたをれもたをれ 日

林中花 於王

まきのつづの月教もいんらんらなまのりしゆくはくれ 日

まのよのくれそくれぬるをれおのつむかたをれ 日

まのよのいんたをれおの百女の道すつ道すれおのいん 日

月教もいんたをれまのりたをれもたをれ 日

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

梅くれむと梅くれむ 梅屋彦太郎

中火のりこもろく〜かひきり〜う〜ふを橋のりこつる声 後拾遺集

禁履 家集 じ〜う〜り〜たけの暮のふ〜い〜るはけまう〜さ〜う〜らん 後拾遺集

禁履柳 家集 ち〜ゆ〜は〜ひ〜く〜下〜枝〜ま〜る〜て〜ら〜う〜吹〜玉〜風〜や〜も〜の〜や〜つ〜こ 三原流

禁履花 家集 し〜し〜け〜ぬ〜き〜井〜の〜花〜の〜下〜も〜形〜て〜お〜な〜を〜ど〜の〜我〜物〜と〜い〜ふ 後拾遺集

禁履萩 家集 嘆〜ま〜る〜り〜萩〜の〜す〜も〜も〜の〜ま〜い〜ら〜の〜て〜こ〜ゆ〜り〜を〜ま〜る〜り〜帆 後拾遺集

禁履虫 家集 ま〜や〜こ〜も〜は〜け〜の〜花〜を〜よ〜む〜り〜の〜の〜ま〜さ〜こ〜旭〜風〜う〜吹 後拾遺集

禁履夕暮 家集 多〜ろ〜ろ〜と〜来〜た〜の〜焼〜火〜の〜か〜あ〜て〜う〜ん〜夕〜暮〜あ〜せ〜し〜と〜さ〜あ〜あ〜 後拾遺集

禁履音 家集 か〜い〜も〜は〜い〜ら〜す〜も〜い〜ち〜の〜ゆ〜き〜の〜と〜は〜は〜は〜と〜お〜は〜ら〜う〜 後拾遺集

既言在菊 家集 菊〜の〜と〜よ〜け〜あ〜と〜う〜〜の〜菊〜の〜ま〜い〜の〜よ〜さ〜さ〜 後拾遺集

既言在菊 家集 菊〜の〜と〜よ〜け〜あ〜と〜う〜〜の〜菊〜の〜ま〜い〜の〜よ〜さ〜さ〜 後拾遺集

言十五 故郷

故郷 家集 こ〜の〜の〜な〜て〜人〜や〜と〜の〜つ〜〜し〜ら〜ら〜れ〜家〜の〜道〜〜 後拾遺集

古柳 辛者 くら〜お〜る〜柳〜じ〜〜く〜な〜に〜し〜ゆ〜の〜こ〜の〜ま〜さ〜せ〜け〜 後拾遺集

古柳 辛者 二〜の〜つ〜〜ま〜の〜こ〜人〜と〜ゆ〜き〜て〜ま〜は〜ら〜の〜う〜ら〜と〜れ〜た〜み〜ら 後拾遺集

古月 辛者 菊〜の〜と〜よ〜け〜あ〜と〜う〜〜の〜菊〜の〜ま〜い〜の〜よ〜さ〜さ〜 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

古月 辛者 一〜あ〜め〜る〜人〜と〜や〜あ〜る〜若〜月〜を〜も〜新〜と〜も〜れ〜橋〜中〜に 後拾遺集

あけ九月 ことらわいおこりりせめおぼ人月もいすき火くらん 遠慮下

水寒草 芽ねも下おこりりまほ入に月の氣もさくし 前調定家

汀のあしき水もよまのいんも風 後拾遺下

あしき風のそよ風さむたはよめて焼ておぼれ 指中基隆

まほあしきのあしきいんはついのかみなり浪風の声 遠慮下

水の氷 くれせいのあしきいんはついのかみなり浪風の声 後拾遺下

あしき水 水き川山もさすむる氣もさすめいり 同

仙家

仙家 集いよよまみかん人の泣きわびのあしきいんはついのかみなり浪風の声 遠慮下

仙家 集いよよまみかん人の泣きわびのあしきいんはついのかみなり浪風の声 遠慮下

山家 山館 山居

山家 月清集いんありしおのりいんはついのかみなり浪風の声 後拾遺下

山館秋雨 明日香井真下いんはついのかみなり浪風の声 末成雅経

山館冬到 山居月 草居いんはついのかみなり浪風の声 遠慮下

山家 山居 草居いんはついのかみなり浪風の声 遠慮下

山家 山居 草居いんはついのかみなり浪風の声 遠慮下

山家 山居 草居いんはついのかみなり浪風の声 遠慮下

山家 山居 草居いんはついのかみなり浪風の声 遠慮下

山家 山居 草居いんはついのかみなり浪風の声 遠慮下

田家

田家 一登夕風よるもれあのかりかきと唐りか袖さるりつるれ 末成雅経

田家 一登夕風よるもれあのかりかきと唐りか袖さるりつるれ 末成雅経

田家堂

雲より山田の水や夕やれをたてしね楢まゝ入るまけ

道遠院

田家麻

後様
吟四

小山田の麻をよそへてまきしるる川やありこころを

雅親

田家秋雨

後様
吟四

山田の雨をよそへてまきしるる川やありこころを

行宗

田家林書

ねねり山田の林をよそへてまきしるる川やありこころを

藤原

田家真

まねり山田の真をよそへてまきしるる川やありこころを

後

言志

春月言志

あけつらるる月をよそへてまきしるる川やありこころを

後

星夕言志

七夕をよそへてまきしるる川やありこころを

後

日 さらさらと流るる水をよそへてまきしるる川やありこころを

道遠院

日 さらさらと流るる水をよそへてまきしるる川やありこころを

後

日 さらさらと流るる水をよそへてまきしるる川やありこころを

後

月言志

あけつらるる月をよそへてまきしるる川やありこころを

後

言志

田家

雲の山田の水や夕やれをたてしね楢まゝ入るまけ

道遠院

田家

小山田の麻をよそへてまきしるる川やありこころを

道遠院

同 大井の山田の水をよそへてまきしるる川やありこころを

同





